

広島市立大学  
ダイバーシティ推進にかかる  
アンケート調査  
報告書

ダイバーシティ推進ワーキンググループ  
2025年10月30日

# 概要

広島市立大学では、「ダイバーシティの尊重と推進」の啓発活動を継続的に実施しています。その一環として、2024年度に教職員を対象として意識調査（アンケート調査）されました。本報告書はその調査結果を2025年度ダイバーシティ推進ワーキングがまとめたものです。

## 【目的】

本調査の目的は、本学の教職員が持つワークライフバランスやジェンダー平等に関する意識や実態を明らかにすることです。性別にかかわらず誰もが活躍できる職場環境や、仕事と生活の調和を実現するための課題を具体的かつ多面的に把握することで、今後の支援策の改善や新たな制度の構築につなげていきます。

## 【調査方法】

- ・ アンケート期間：2024年10月17日～11月8日
- ・ アンケート方法：Formsを用いたオンライン調査
- ・ アンケート項目：①基本属性、②ワークライフバランスに対する意識、③ジェンダー平等に関する各項目
- ・ アンケート対象：教職員全員 345名（教員195名, 職員150名）

## 【回収率】

本調査の回答者は130名（教員83名, 職員47名）であり、回収率は約38%です。また、教員および職員の回収率はそれぞれ約43%および約31%という結果となりました。

## 【調査結果の総括】

本調査では、本学教職員のワークライフバランスおよびジェンダー平等に関する意識の実態調査を行いました。その結果、教員・職員のいずれにおいても、仕事と生活の両立に関して一定の課題を感じている実態が明らかになりました。

ワークライフバランスに関して、教員では「仕事と生活の調和がとれていない」と感じる回答が約4割を占め、また将来的な育児や介護との両立に不安を抱く人が7割を超えました。特に、育児・介護休業制度の利用については、制度が存在しても実際には「利用しにくい雰囲気」や「業務代替体制の不十分さ」が障壁となっていることが示唆されました。職員においても約8割が将来的な両立に不安を感じており、教員よりも高い割合で課題を抱えていることが分かりました。職員はワークライフバランスを比較的肯定的に捉える傾向にあるものの、育児・介護休業取得の困難さや業務負担の偏りなど、職場環境の改善を求める声が多く寄せられました。自由記述回答の設問では、在宅勤務やフレックスタイムの柔軟な導入、会議や委員会業務の効率化、学内における育児支援体制の充実など、多様な意見や提案が寄せられました。これらの声は支援制度の利用促進ができていないことや、制度の周知ができていないことに起因するものと考えられます。

ジェンダー平等に関しては、教員の全体の約4分の1が「性別による処遇差がある」と回答し、特に女性の方がその差を強く感じている傾向が見られました。このことから、制度の公平性だけでなく、実際の運用や職場文化の中での「見えにくい格差」への配慮が必要であると考えられます。

全体を通して、調査結果における改善要望、提案には他大学における調査結果と同様のものが多い一方、個人事情によるものの切実な問題もあり、本学の実態把握として有益なものでした。こうした問題の解決や要望の対応には制度面の整備にとどまらず、職場全体の意識改革や相互理解の促進が求められていることが明らかになりました。教職員の意識に関しては、アンケートの回収率(38%)の低さも問題と考えています。

本結果を踏まえ、ダイバーシティ推進WGでは、ワークライフバランスの実現やジェンダー平等と多様性を尊重する職場文化の醸成に向けた具体的な施策を検討していきたいと思います。まずは、「どのような制度があり、どこに相談すればよいのか」といった基本的な情報が十分に周知されていないことが問題であることから、既存の制度の周知徹底により、制度の利用促進を図ります。

# 教員アンケート：不満(不安)が目立つ設問

## ワークライフバランス

設問8「あなたは現在、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）がとれていると感じますか」

- ・ 34/83名(41%)が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答
- ・ 生活と仕事の調和に課題を感じている

設問16「現在ないし将来において、仕事と育児または（および）介護の両立に不安を感じることがありますか」

- ・ 62/83名（75%）が「ある」「少しある」と回答
- ・ 将来的な負担を強く意識している

設問17「女性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか」

- ・ 51/83名(61%)が「思う」「少し思う」と回答
- ・ 積極的に休業取得できる仕組みが必要

育児・介護休業後の復職時における業務調整や、同僚への負担を考慮した「遠慮意識」が根強いことが背景

設問18「男性の育児・介護休業取得やその後育児への積極的参加に困難があると思いますか」

- ・ 65/83名(78%)が「思う」「少し思う」と回答
- ・ 制度の使いにくさやハードルがある可能性

## ジェンダー平等に関する意識

設問24「広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか」

- ・ 19/83名（23%）が「思う」「少し思う」と回答  
女性が47%（8/17名）である一方、男性は17%（11/64名）にとどまる（性別未回答2名）
- ・ 女性の方が処遇差を強く感じている傾向が明確

# 職員アンケート：不満(不安)が目立つ設問

## ワークライフバランス

設問8 「あなたは現在、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）がとれていると感じますか」

- ・ 11/47名（23%）が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答
- ・ 教員との比較：教員は肯定的（59%）、否定的（41%）
- ・ 職員の方が「ワークライフバランスが取れている」と感じている割合が高い

設問16 「現在ないし将来において、仕事と育児または（および）介護の両立に不安を感じることがありますか」

- ・ 38/47名(81%)が「ある」「少しある」と回答
- ・ 職員の方が教員（75%）よりも高い割合で不安を抱えている

設問17 「女性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか」

- ・ 36/47名（77%）が「思う」「少し思う」と回答
- ・ 教員と同様に、積極的に休業取得できる仕組みが必要

設問18 「男性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか」

- ・ 37/47名（79%）が「思う」「少し思う」と回答
- ・ 教員と比べ職員の方が 育児・介護休業取得の困難さを強く感じている
- ・ 制度自体は存在しても、実際には利用しにくい雰囲気・業務代替体制の不十分さが大きな要因と推測される

## ジェンダー平等に関する意識

設問24 「広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか」

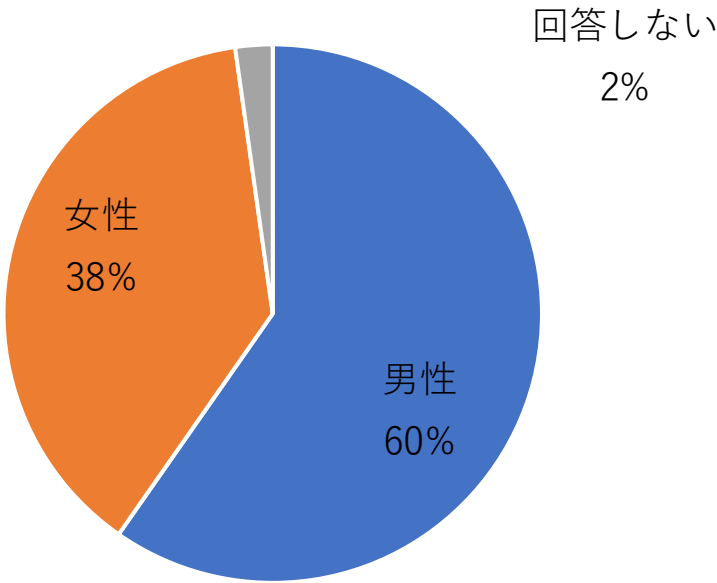
- ・ 12/47名（26%）が「思う」「少し思う」と回答  
女性が約31%（10/32名）である一方、男性は17%（2/14名）にとどまる（性別未回答1名）
- ・ 女性の方が処遇差を強く感じている傾向が明確

参考：アンケート結果

# 基本属性

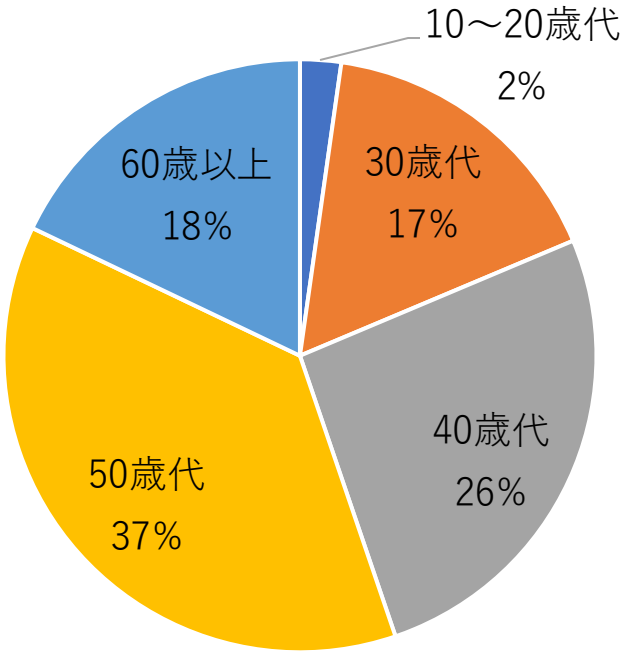
性別

男性	80
女性	51
回答しない	3



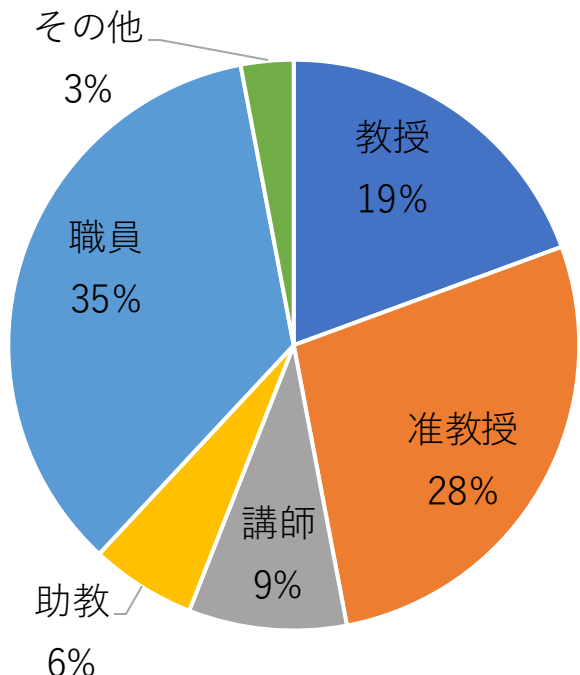
年齢

10～20歳代	3
30歳代	22
40歳代	35
50歳代	50
60歳以上	24



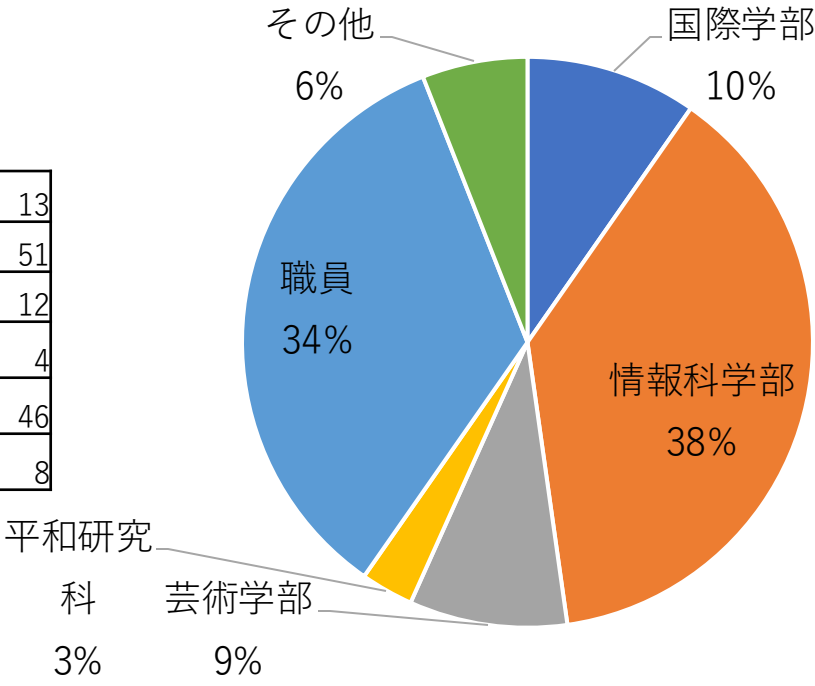
職名

教授	26
准教授	37
講師	12
助教	8
職員	47
その他	4



所属学部

国際学部	13
情報科学部	51
芸術学部	12
平和研究科	4
職員	46
その他	8

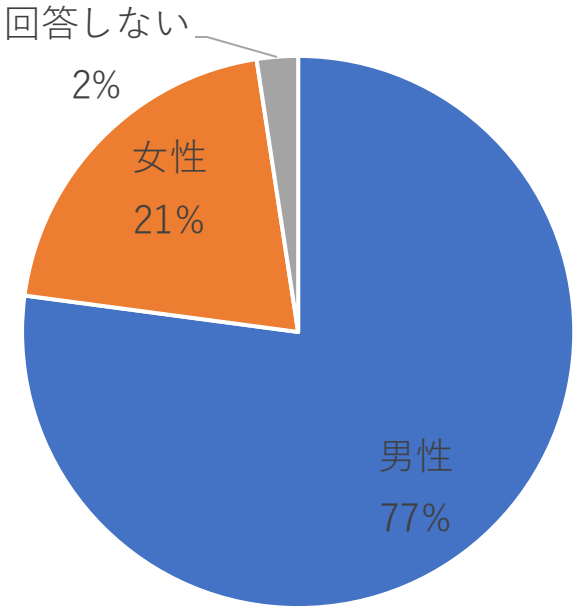


# 教員における調査結果

# 教員（83名，基本属性）

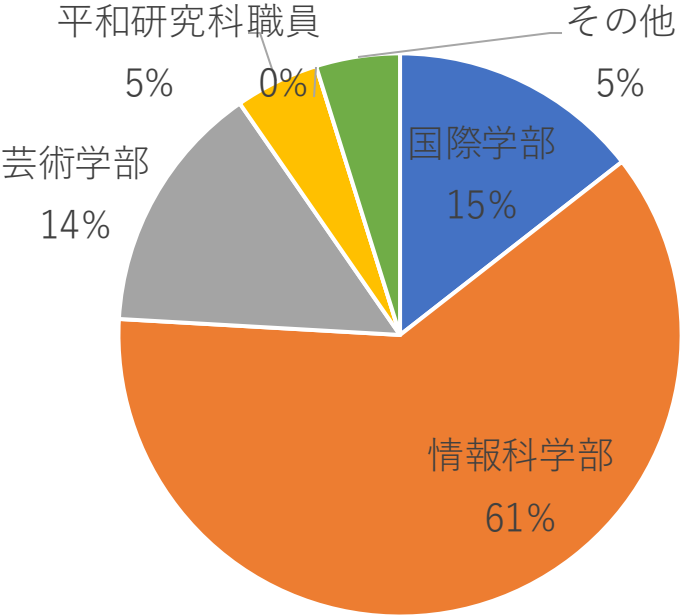
性別

男性	64
女性	17
回答しない	2



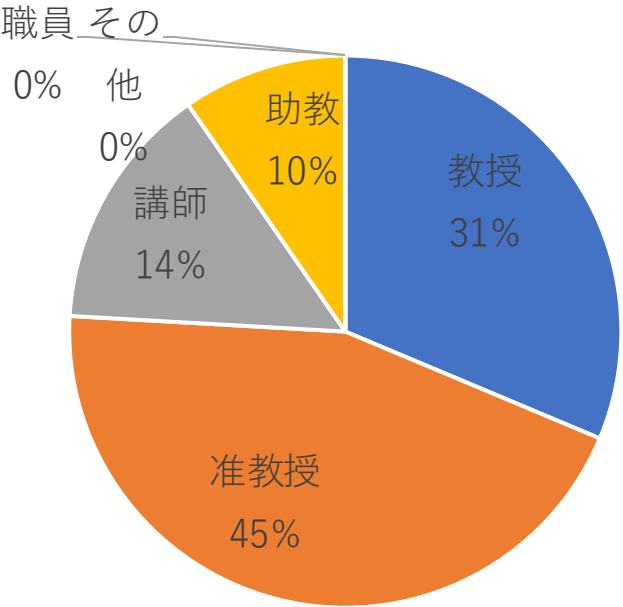
所属

国際学部	12
情報科学部	51
芸術学部	12
平和研究科	4
職員	0
その他	4



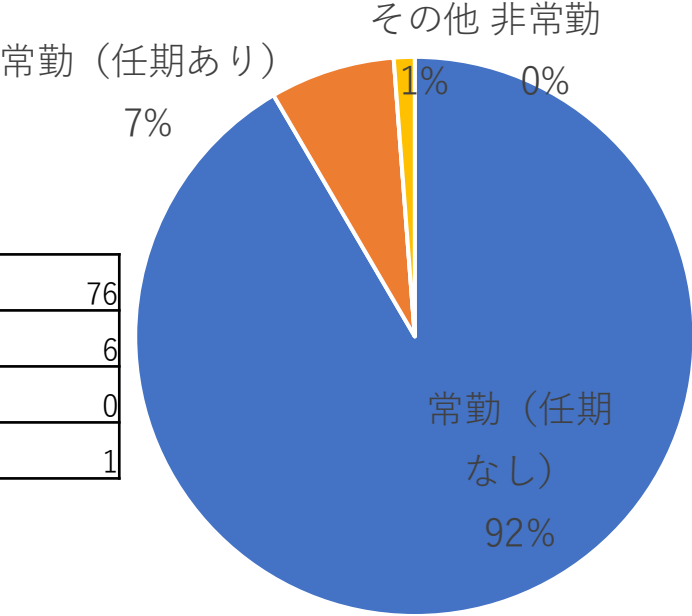
役職

教授	26
准教授	37
講師	12
助教	8
職員	0
その他	0



雇用形態

常勤（任期なし）	76
常勤（任期あり）	6
非常勤	0
その他	1

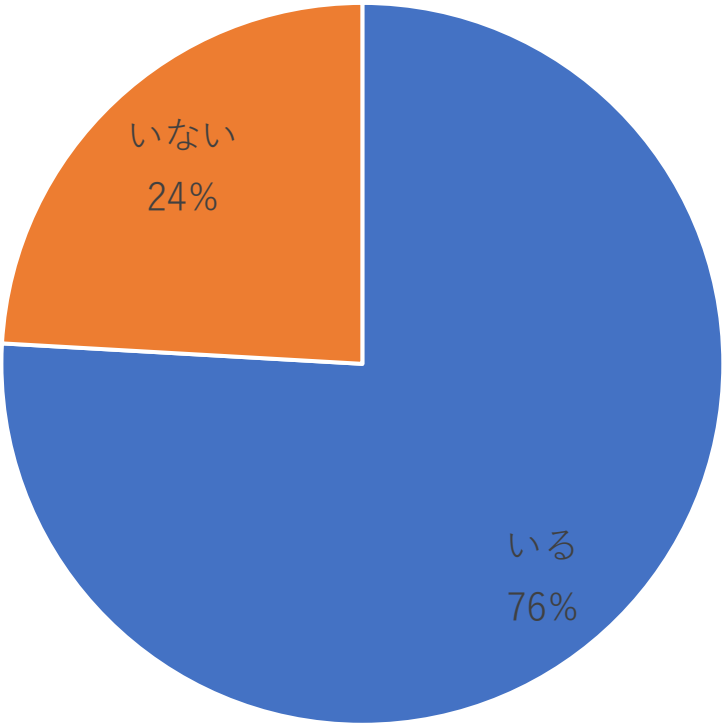




6.配偶者（法律婚・異性婚に限定しない）は  
いらっしゃいますか。（教員）

配偶者

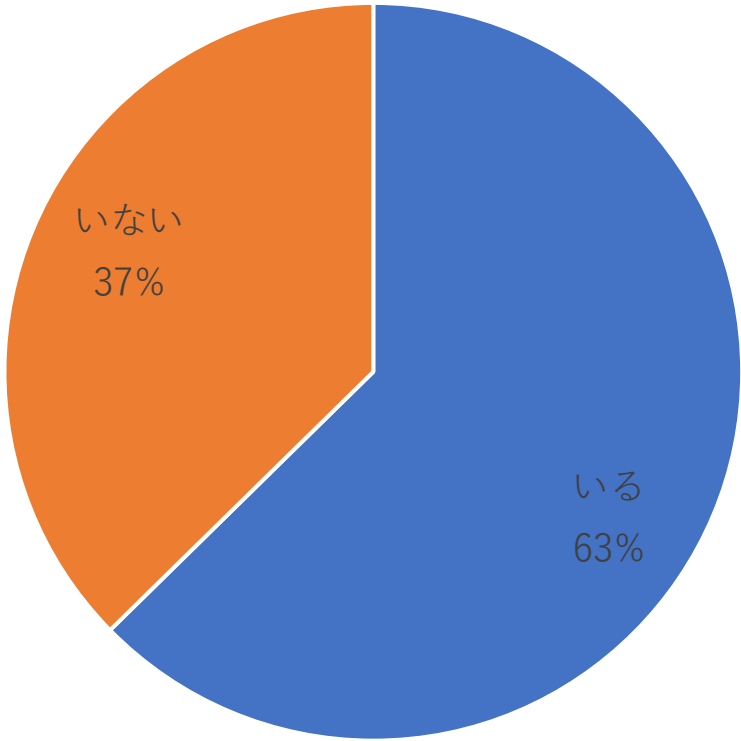
いる	63
いない	20



7.お子さんはいらっしゃいますか回答するのに必要  
です. 単一選択.

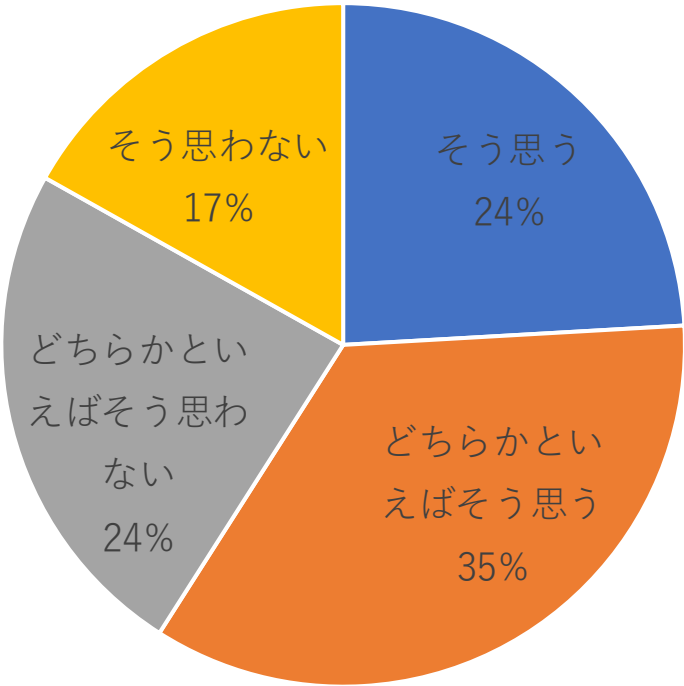
子ども

いる	52
いない	31



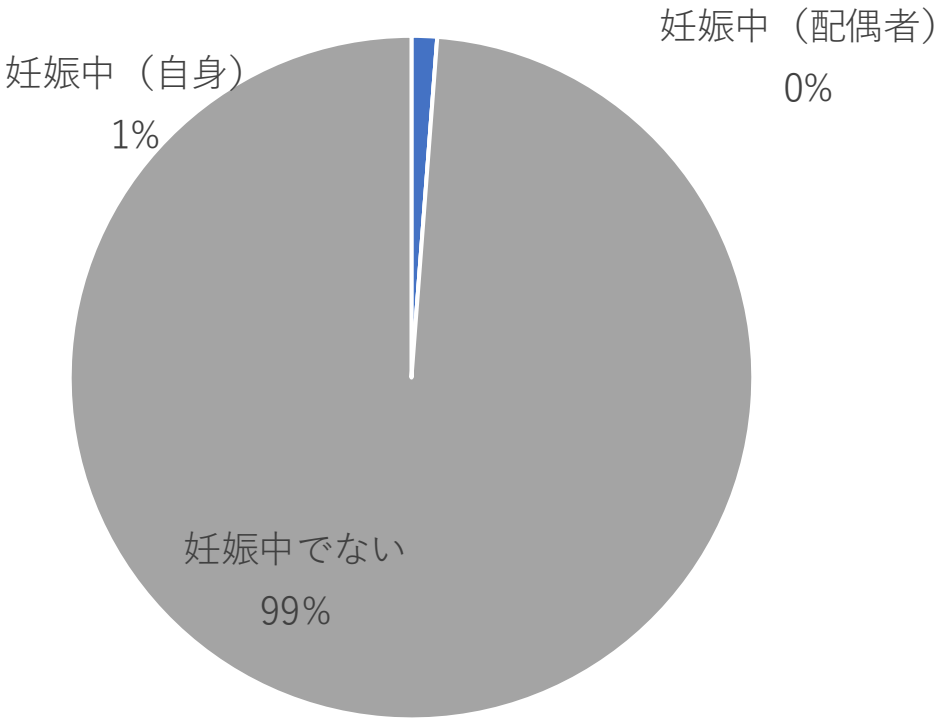
8.あなたは現在、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）がとれていると感じますか。回答するのに必要です. 単一選択.

そう思う	20
どちらかといえばそう思う	29
どちらかといえばそう思わない	20
そう思わない	14



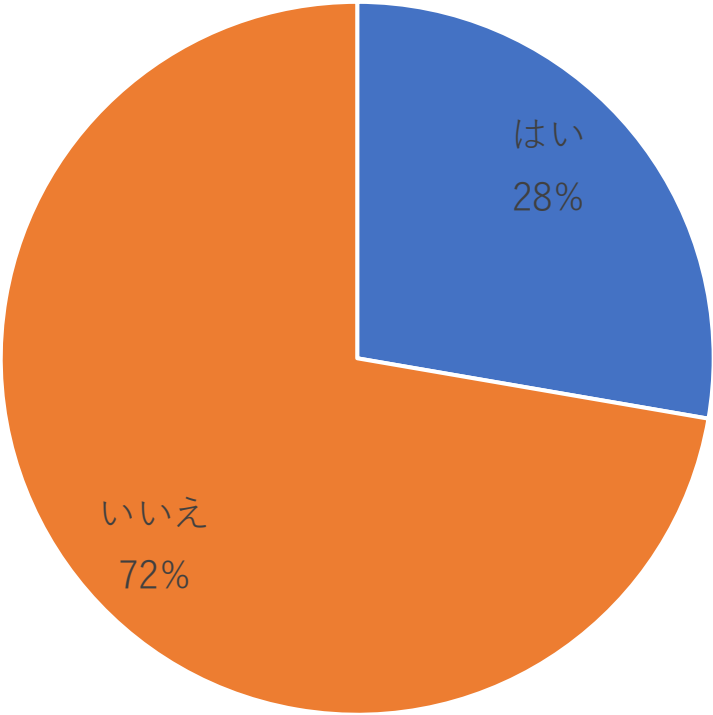
9.現在、あなた自身または配偶者は妊娠中ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

妊娠中（自身）	1
妊娠中（配偶者）	0
妊娠中でない	82



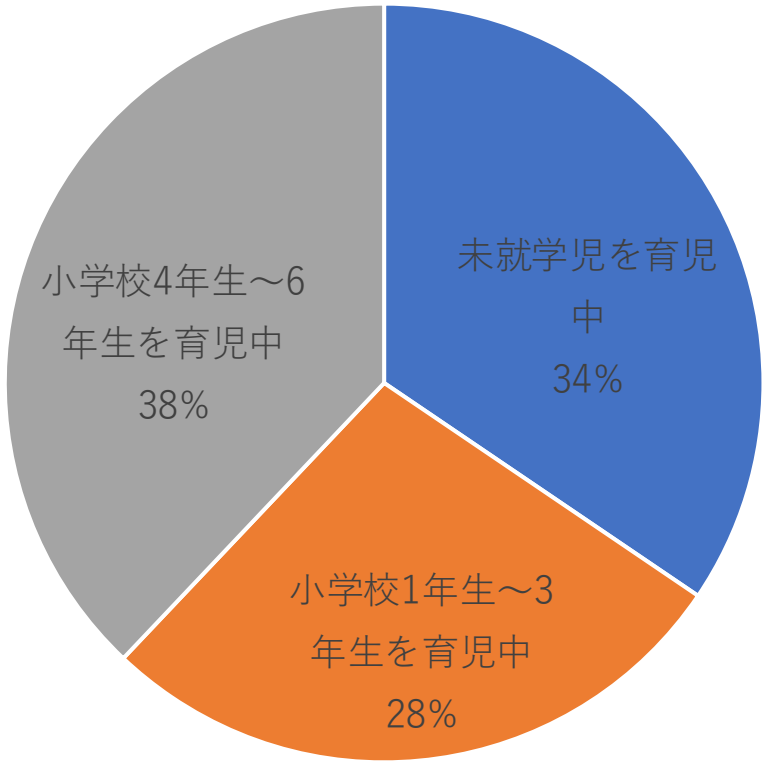
10.現在、育児中ですか。（未就学児～小学6年生に限る）回答するのに必要です. 単一選択.

はい	23
いいえ	60



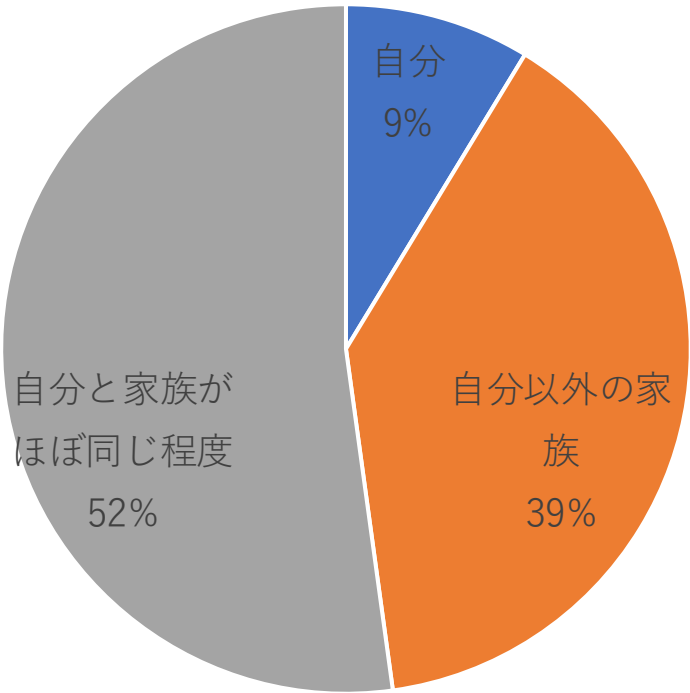
11.育児の状況をお聞かせください（複数回答可）回答するのに必要です. 複数選択.

未就学児を育児中	10
小学校1年生～3年生を育児中	8
小学校4年生～6年生を育児中	11



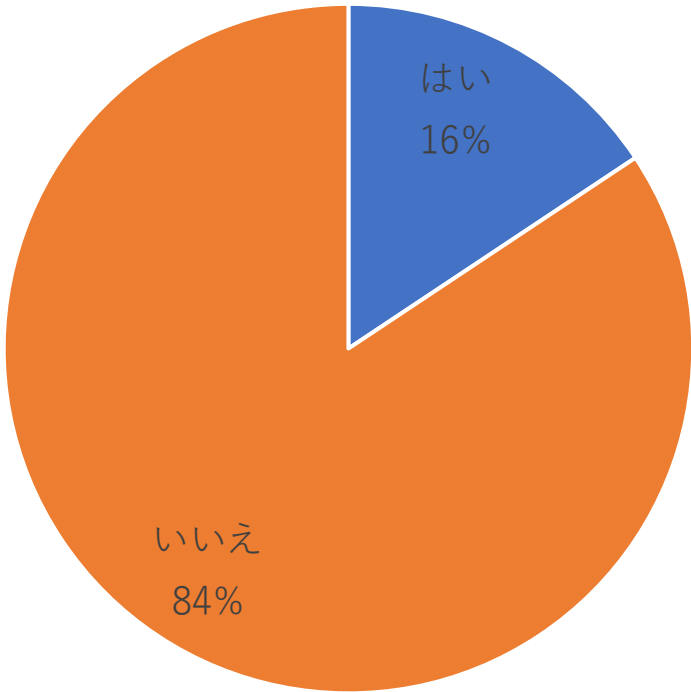
12.子育てを主に担っているのは誰ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

自分	2
自分以外の家族	9
自分と家族がほぼ同じ程度	12



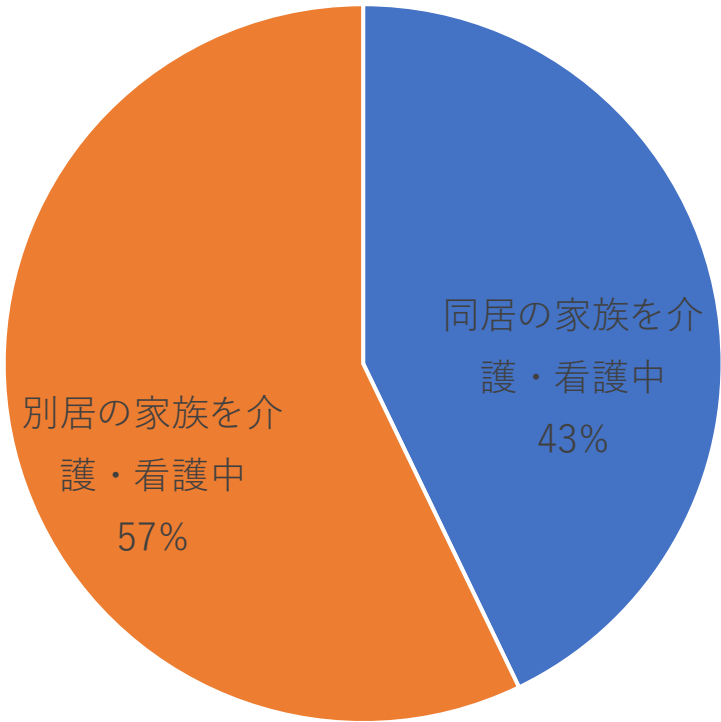
13.現在、あなたは介護・看護中ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

はい	13
いいえ	70



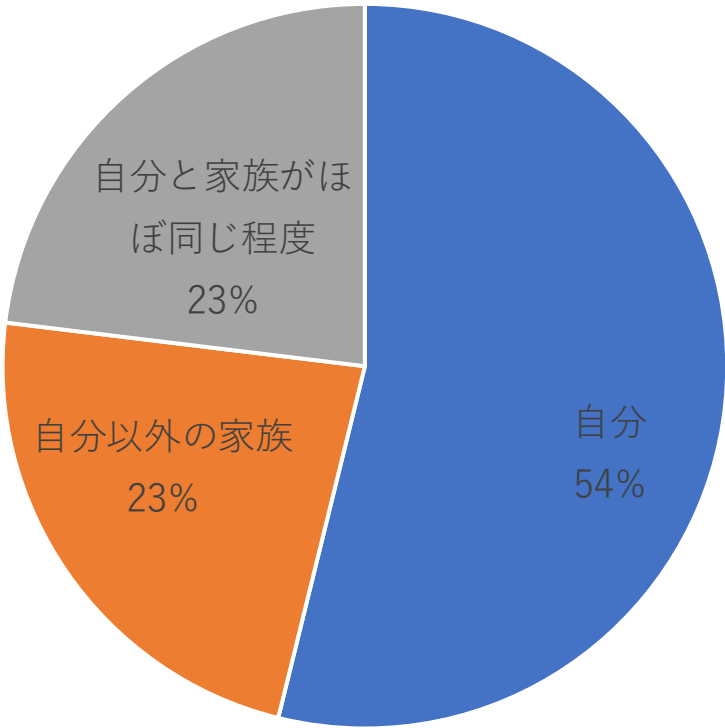
14.介護・看護の状況をお聞かせください（複数回答可） 回答するのに必要です. 複数選択.

同居の家族を介護・看護中	6
別居の家族を介護・看護中	8



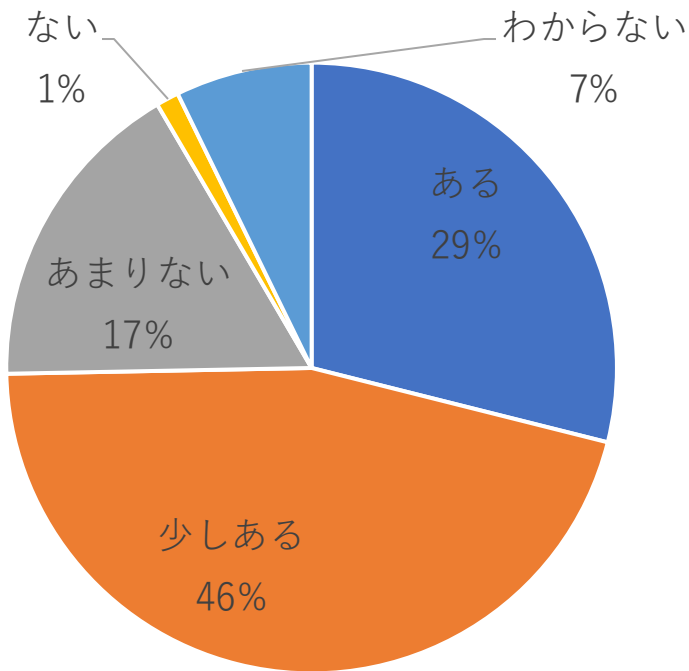
15.介護・看護を主に担っているのは誰ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

自分	7
自分以外の家族	3
自分と家族がほぼ同じ程度	3



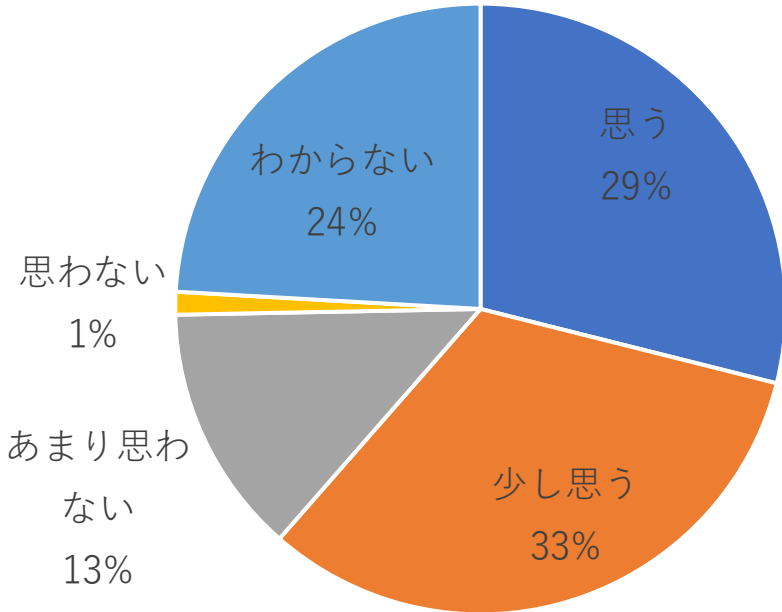
16.現在ないし将来において、仕事と育児または（および）介護の両立に不安を感じることがありますか。回答するのに必要です. 単一選択.

ある	24
少しある	38
あまりない	14
ない	1
わからない	6



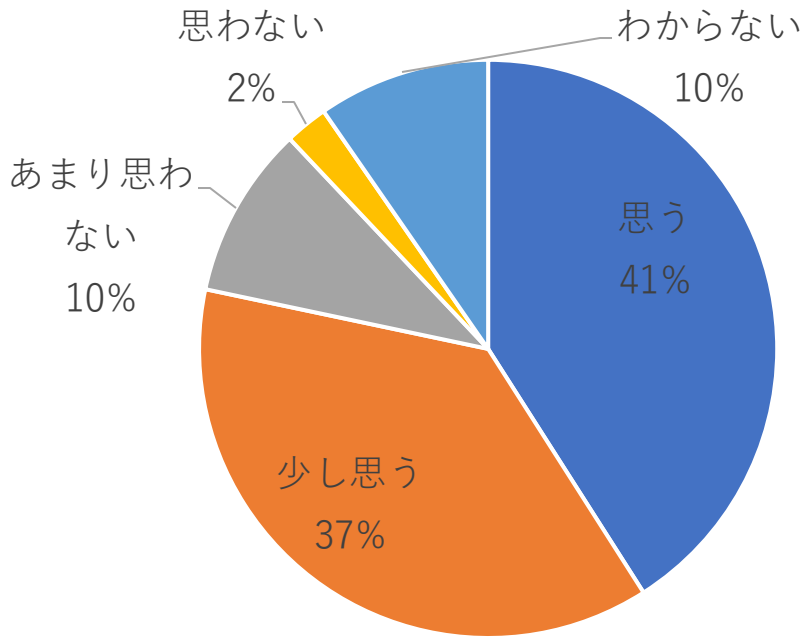
17.女性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか。回答するのに必要です. 単一選択.

思う	24
少し思う	27
あまり思わない	11
思わない	1
わからない	20



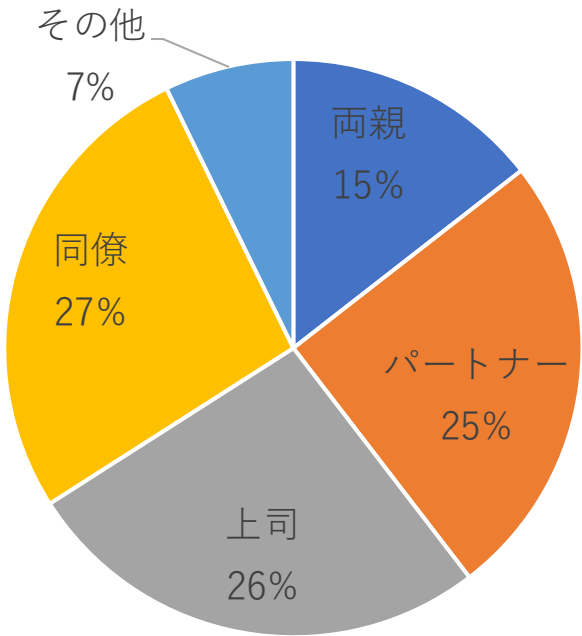
18.男性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか。 回答するのに必要です. 単一選択.

思う	34
少し思う	31
あまり思わない	8
思わない	2
わからない	8



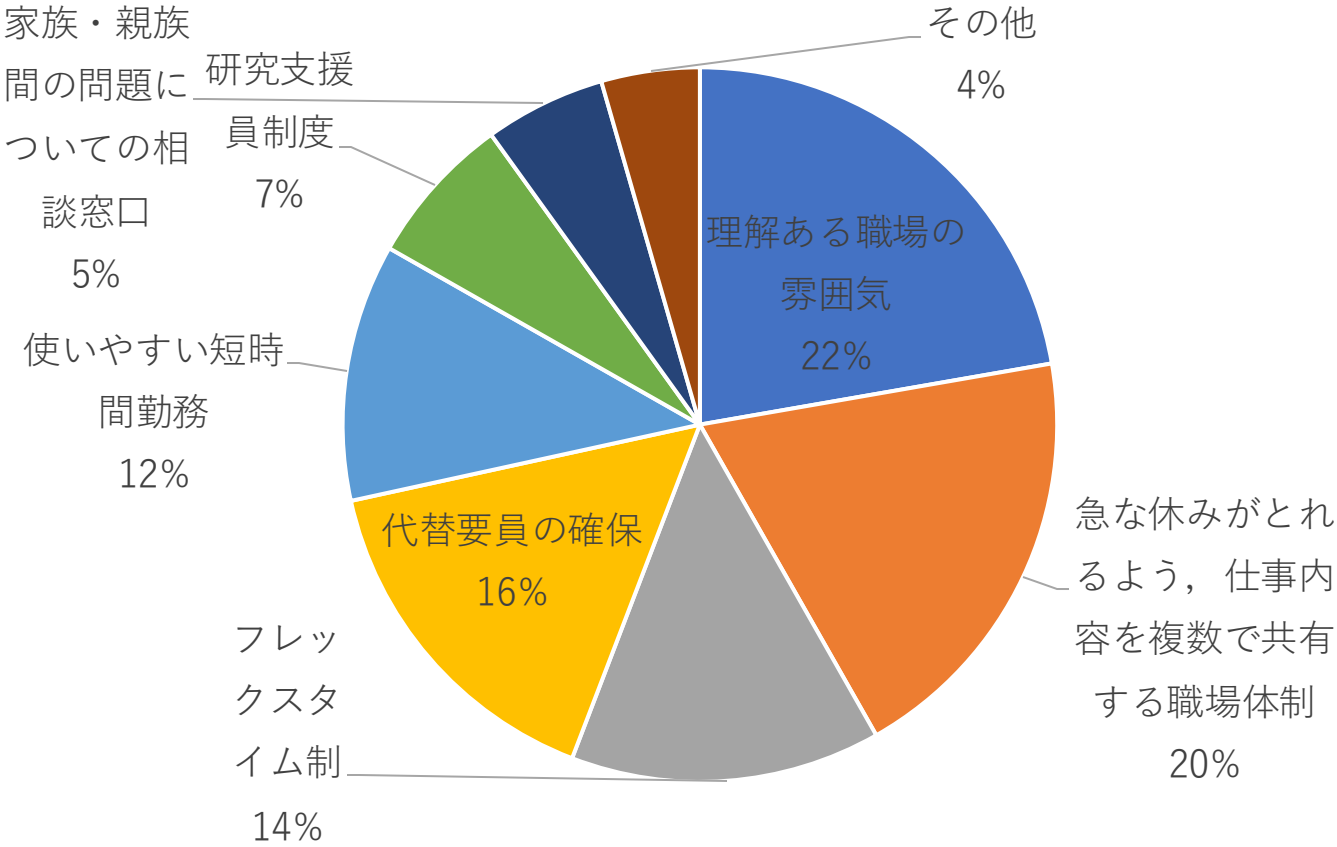
19.育児と仕事、介護と仕事を両立するために誰の理解が必要だと思いますか。(複数回答可) 回答するのに必要です. 複数選択.

両親	34
パートナー	59
上司	62
同僚	63
その他	17



20.育児と仕事、介護と仕事を両立するためには何が必要だと思いますか。（複数回答可）

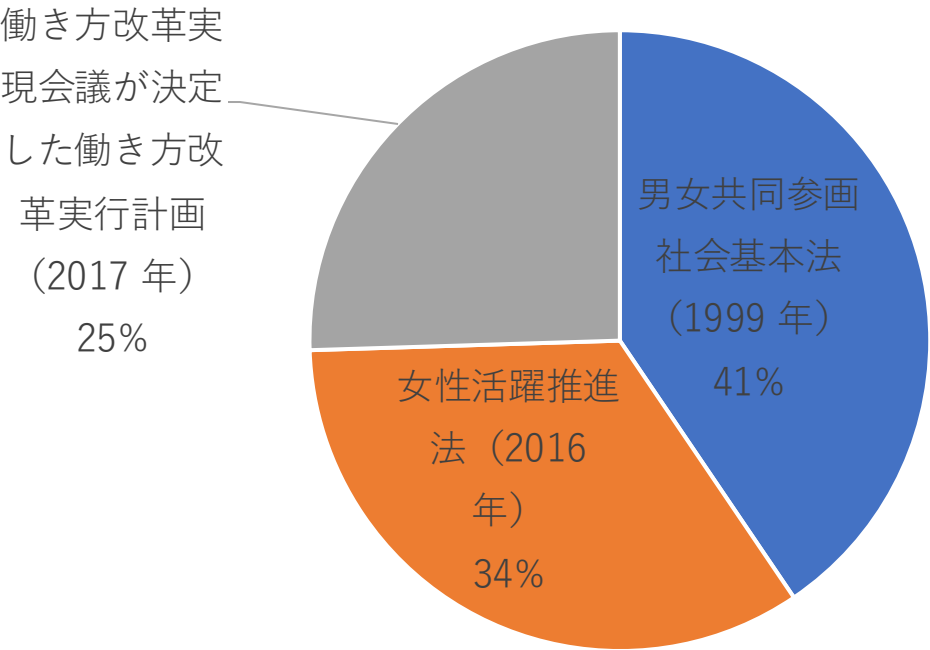
理解ある職場の雰囲気	65
急な休みがとれるよう，仕事内容を複数で共有する職場体制	57
フレックスタイム制	41
代替要員の確保	46
使いやすい短時間勤務	34
研究支援員制度	20
家族・親族間の問題についての相談窓口	16
その他	13





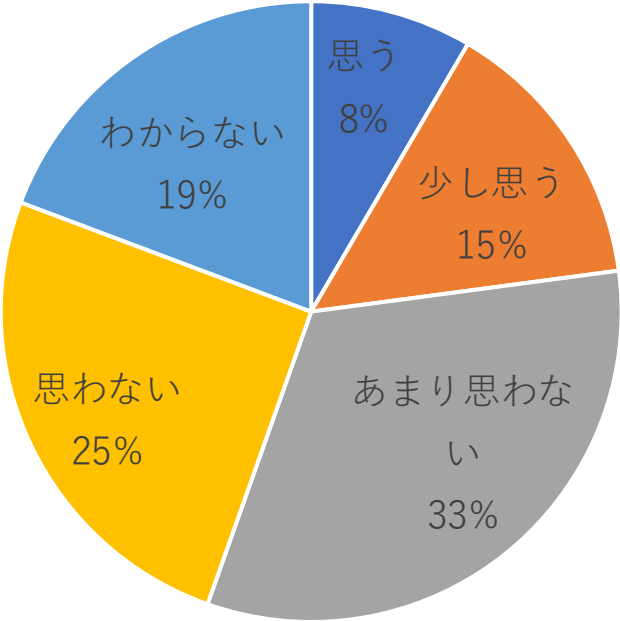
23.次のことを知っていますか。（複数回答可）

男女共同参画社会基本法（1999 年）	62
女性活躍推進法（2016 年）	52
働き方改革実現会議が決定した働き方 改革実行計画（2017 年）	39



24.広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか。単一選択.

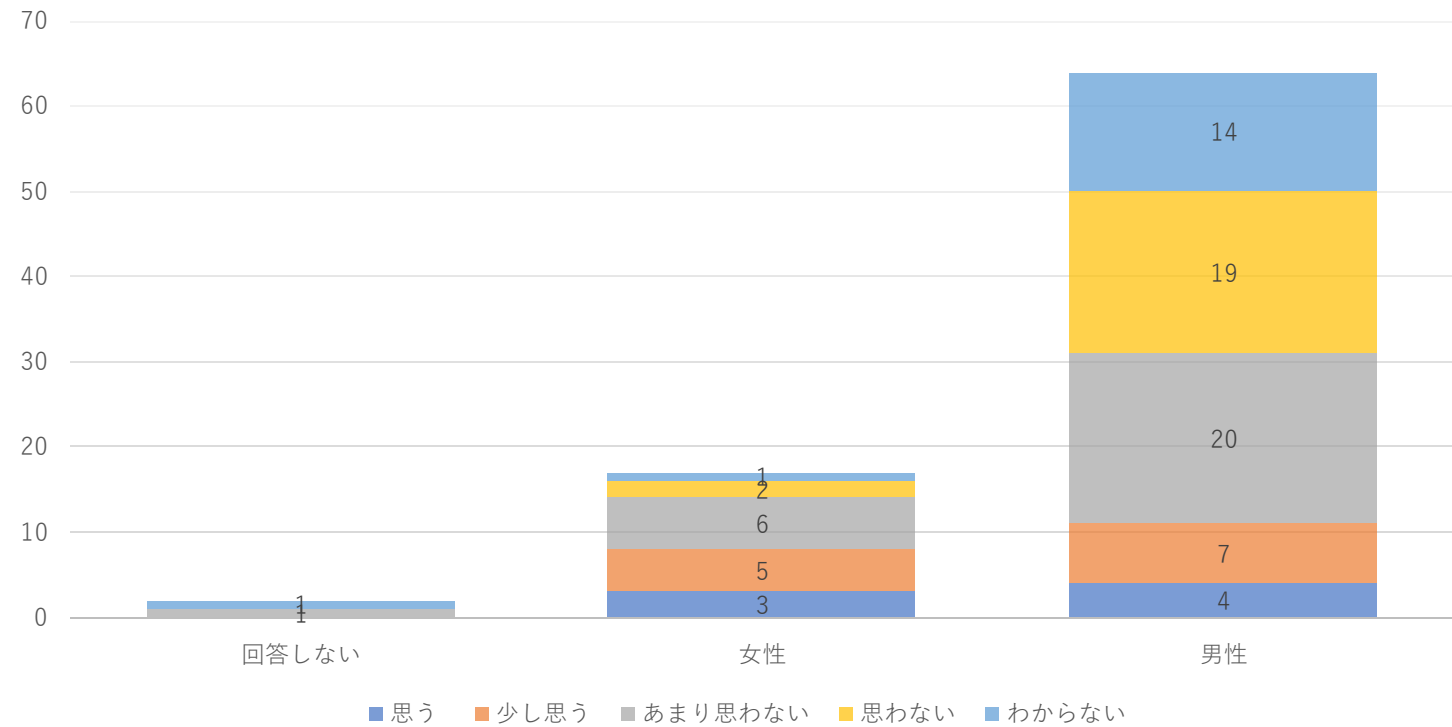
思う	7
少し思う	12
あまり思わない	27
思わない	21
わからない	16



24. （男女別） 広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか。単一選択.

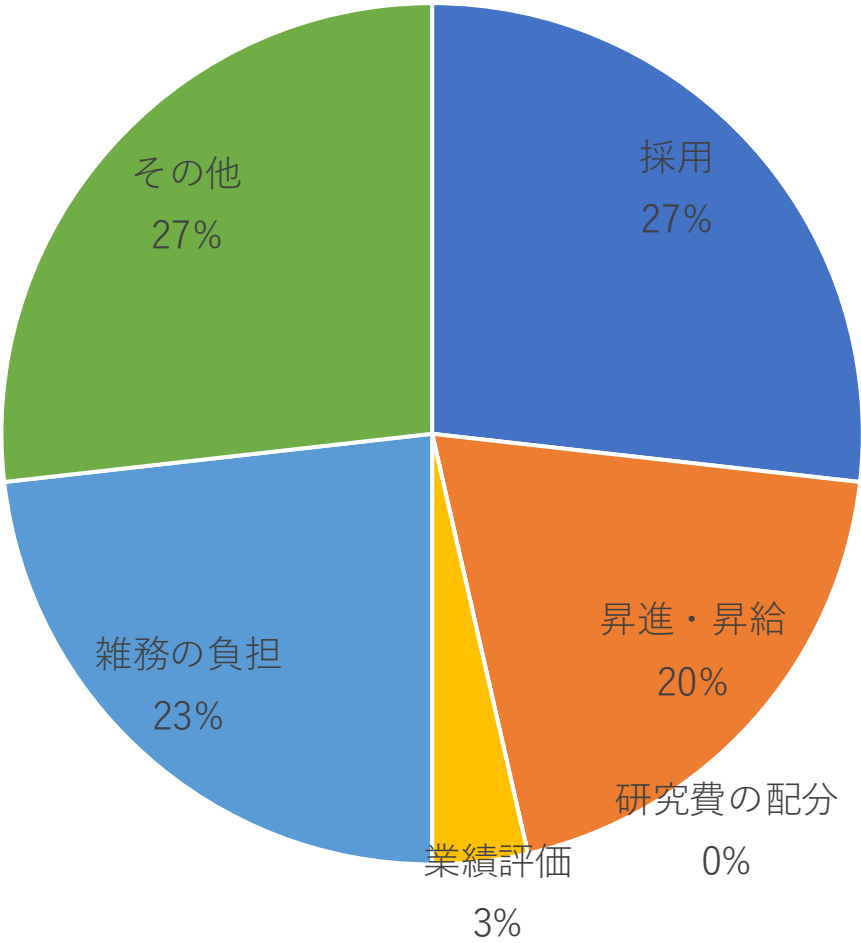
	思う	少し思う	あまり思わない	思わない	わからない	総計
回答しない			1		1	2
女性	3	5	6	2	1	17
男性	4	7	20	19	14	64
総計	7	12	27	21	16	83

特に 女性の約47%（3+5=8/17名）が「差がある」と回答  
一方，男性では 約17%（11/64名）



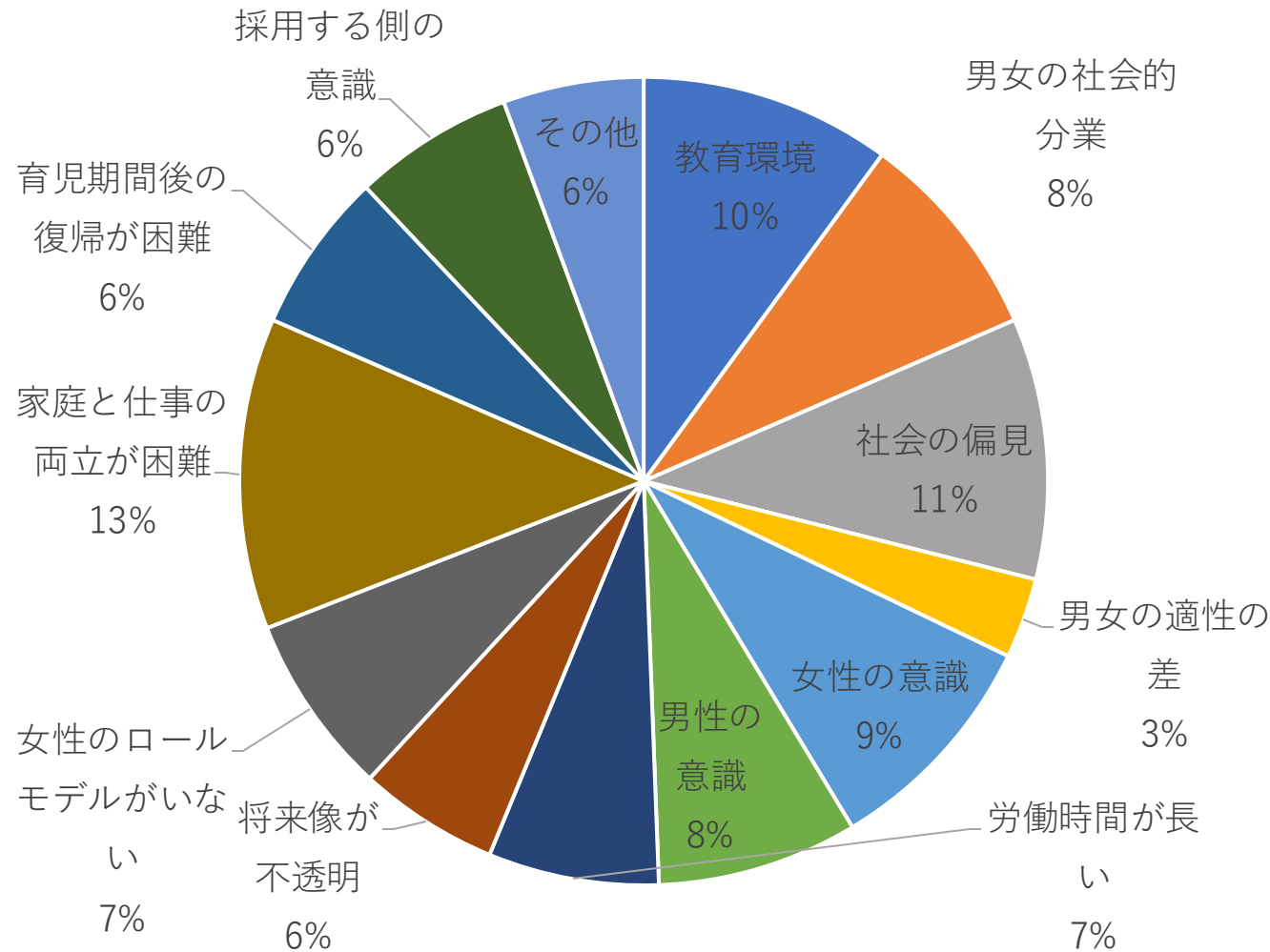
25.どのような面で性別による処遇の差があると思いますか。(複数回答可)

採用	15
昇進・昇給	11
研究費の配分	0
業績評価	2
雑務の負担	13
その他	15



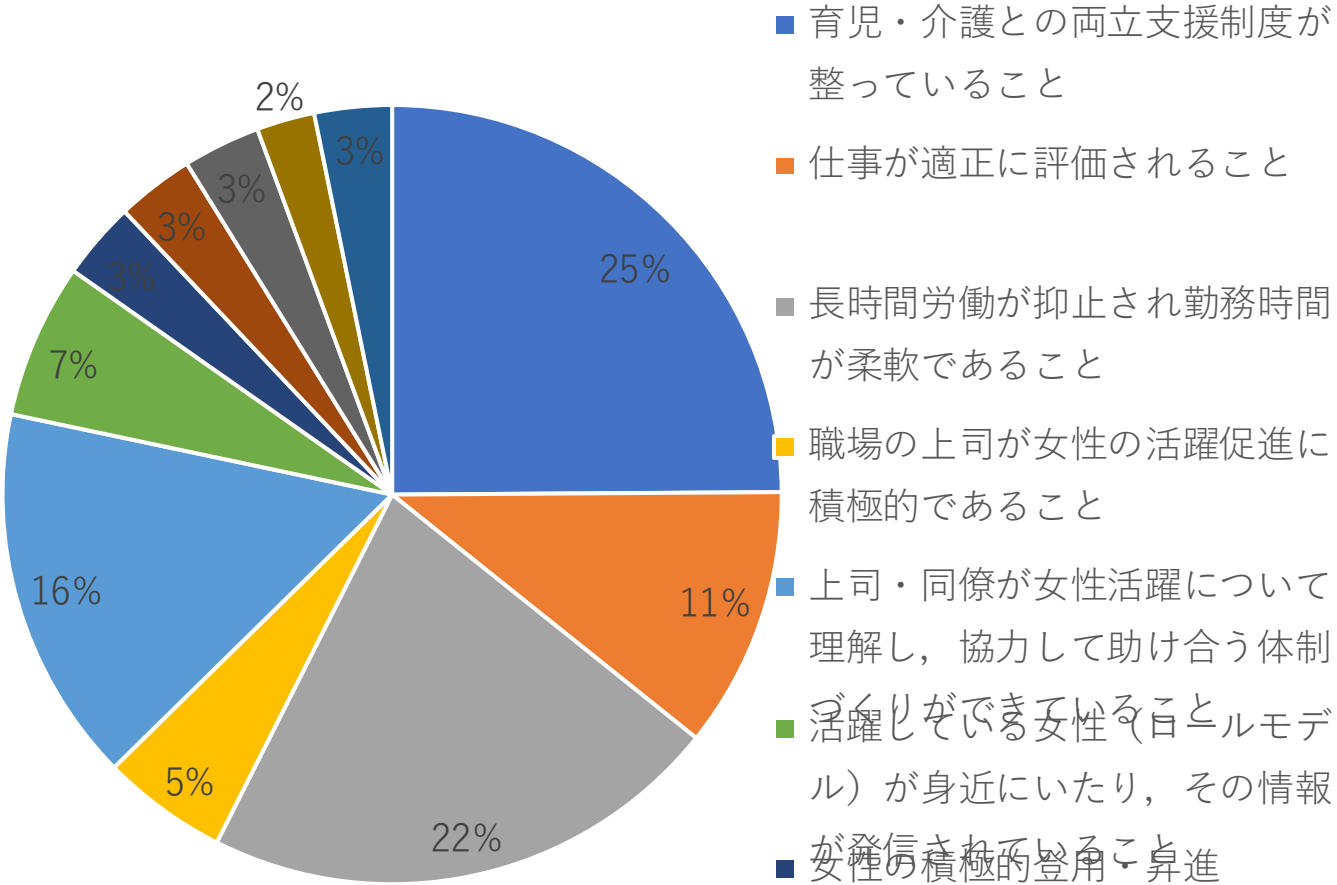
27.女性研究者が少ない主な理由として考えられるものを3つ選んでください。 回答するのに必要です. 複数選択.

教育環境	25
男女の社会的分業	21
社会の偏見	26
男女の適性の差	8
女性の意識	23
男性の意識	20
労働時間が長い	17
将来像が不透明	14
女性のロールモデルがない	18
家庭と仕事の両立が困難	31
育児期間後の復帰が困難	16
採用する側の意識	16
その他	14



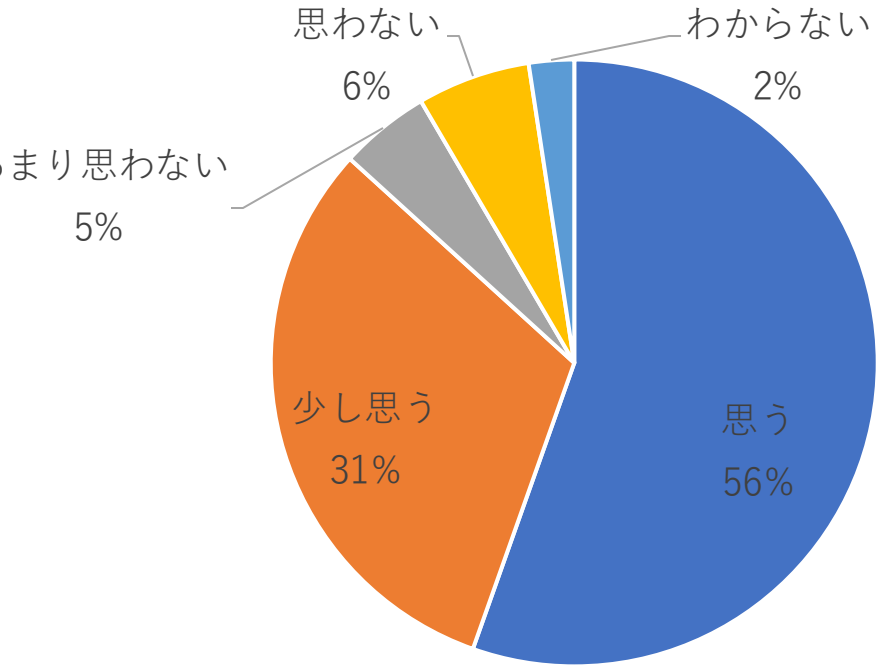
29.女性が職場で活躍するために何が必要だと思いますか？（もっとも必要だと思うものを3つ選んでください） 回答するのに必要です. 複数選択.

育児・介護との両立支援制度が整っていること	62
仕事が適正に評価されること	27
長時間労働が抑止され勤務時間が柔軟であること	54
職場の上司が女性の活躍促進に積極的であること	13
上司・同僚が女性活躍について理解し，協力して助け合う体制づくりができていること	39
活躍している女性（ロールモデル）が身近にいたり，その情報が発信されていること	16
女性の積極的登用・昇進	8
メンター（相談相手）や相談窓口があること	8
女性同士のネットワークや情報交換・交流の場があること	8
キャリアアップのための研修の機会があること	6
その他	8



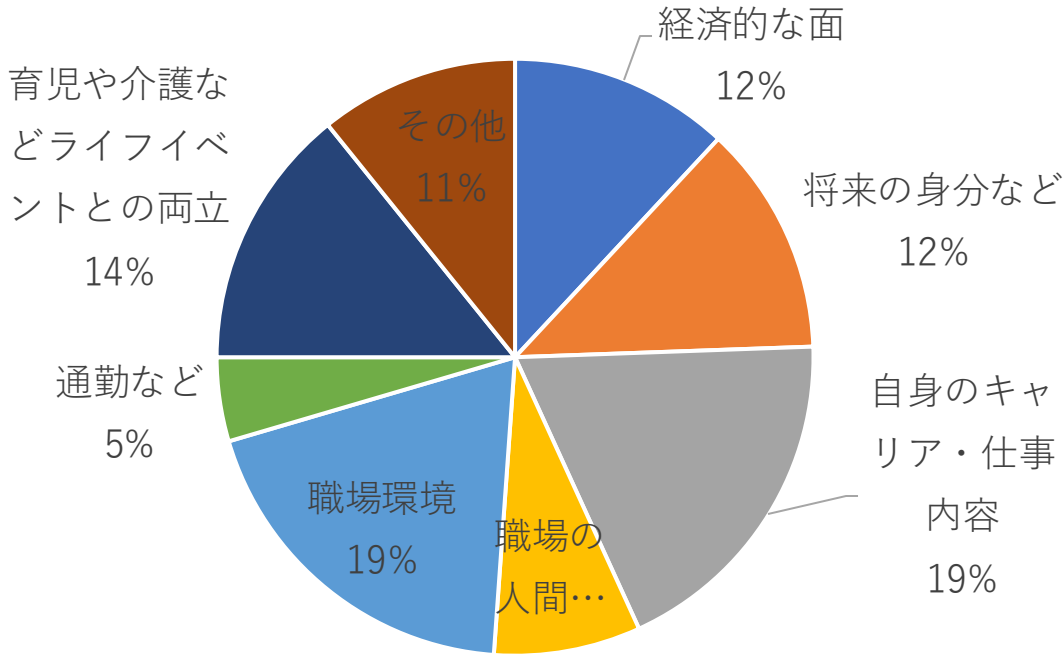
31.広島市立大学における仕事を続けたい(仕事に就きたい)と思いますか。 回答するのに必要です. 単一選択.

思う	46
少し思う	26
あまり思わない	4
思わない	5
わからない	2



32.ご自身が広島市立大学での仕事を続けるにあたって(就くにあたって)、不安なこと、改善を望むことは何ですか。(複数回答可)回答するのに必要です. 複数選択.

経済的な面	21
将来の身分など	22
自身のキャリア・仕事内容	33
職場の人間関係	14
職場環境	34
通勤など	8
育児や介護などライフイベントとの両立	25
その他	19

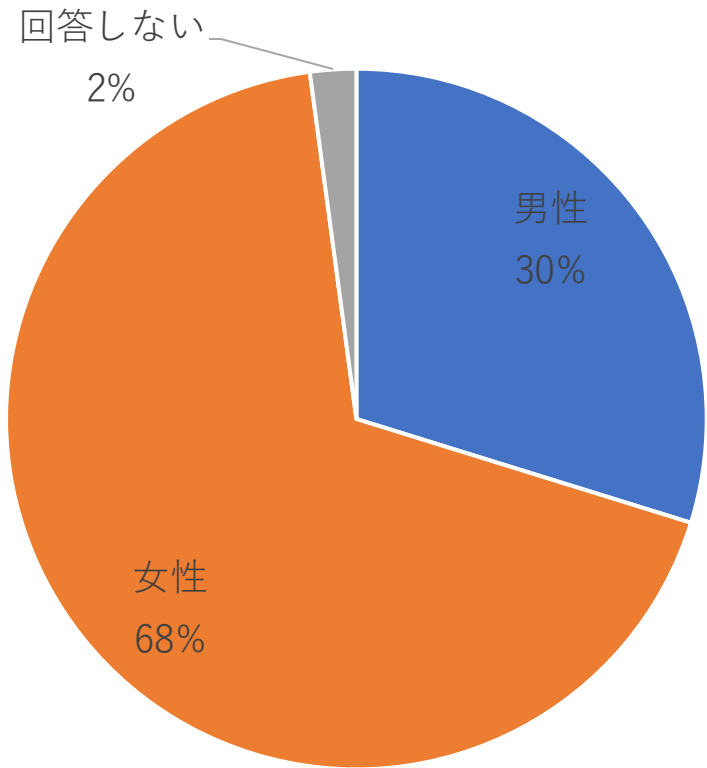


# 職員における調査結果

# 職員（47名，基本属性）

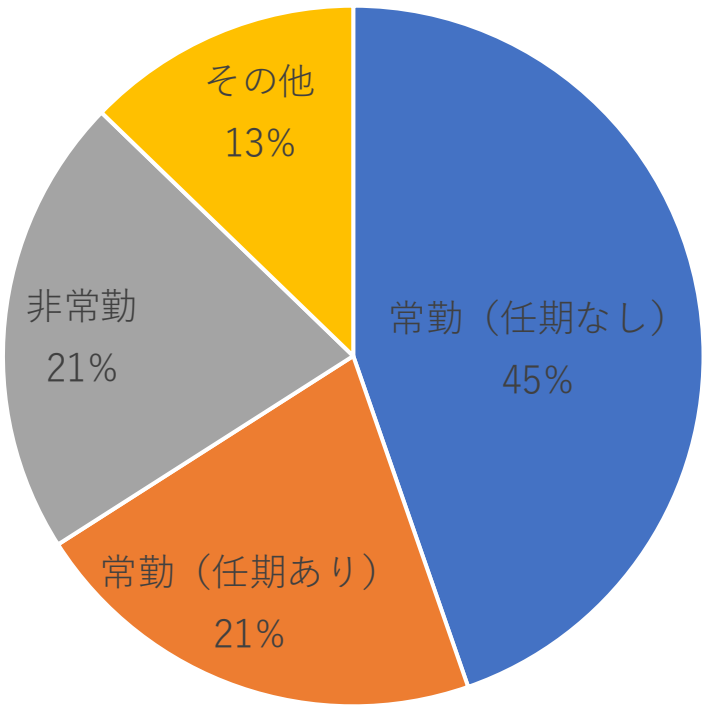
性別

男性	14
女性	32
回答しない	1



雇用形態

常勤（任期なし）	21
常勤（任期あり）	10
非常勤	10
その他	6

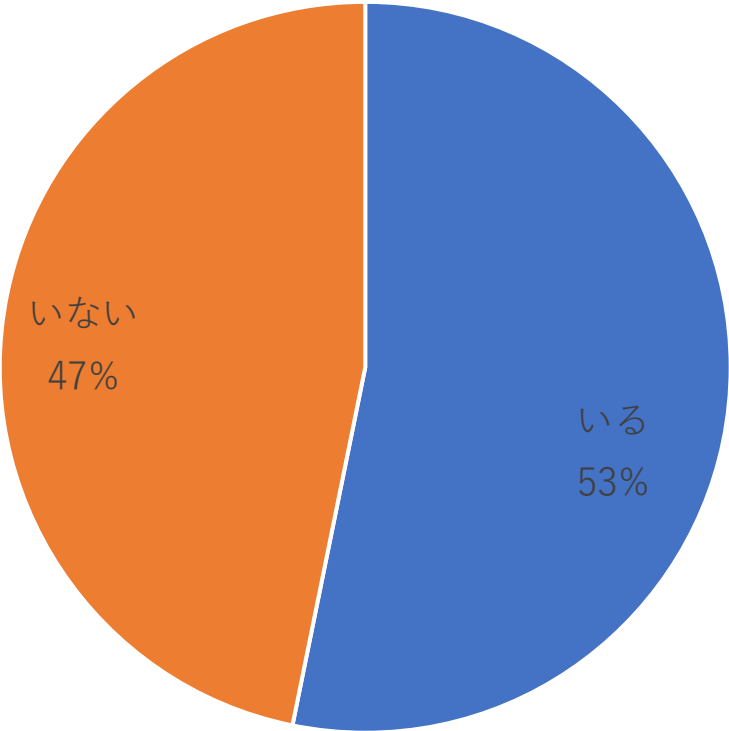




6.配偶者（法律婚・異性婚に限定しない）は  
いらっしゃいますか。（教員）

配偶者

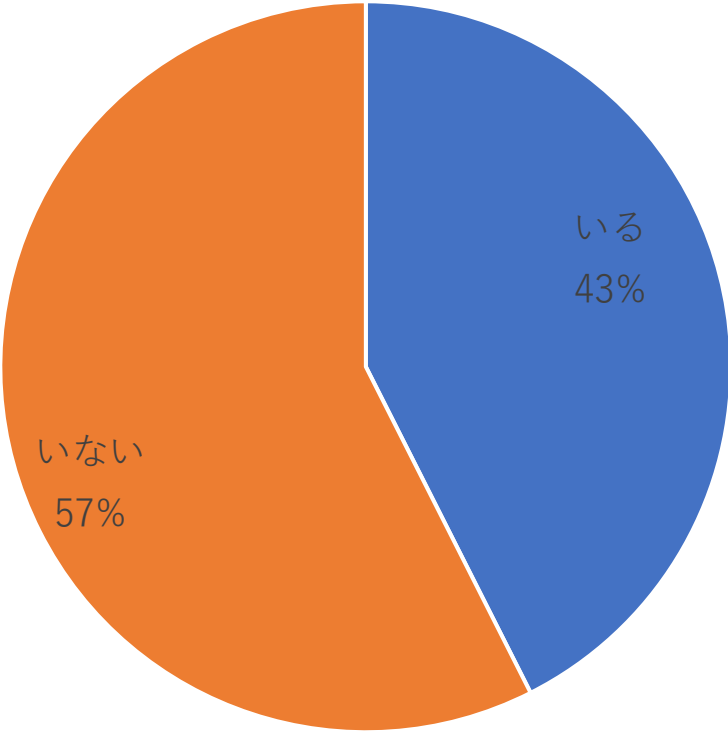
いる	25
いない	22



7.お子さんはいらっしゃいますか回答するのに必要  
です. 単一選択.

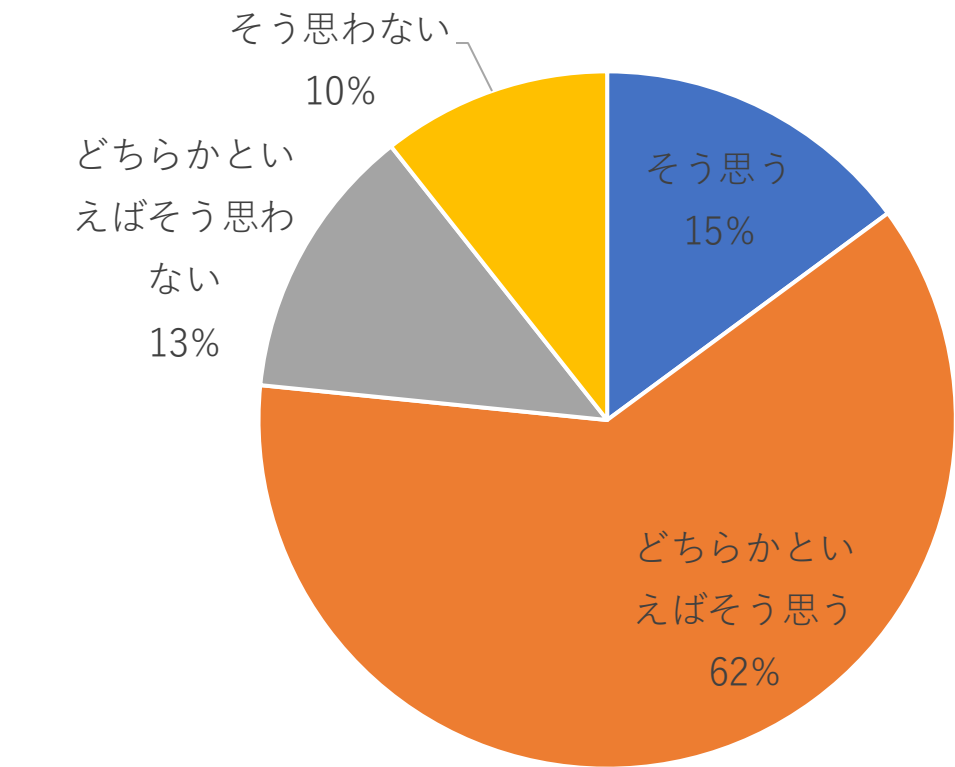
子ども

いる	20
いない	27



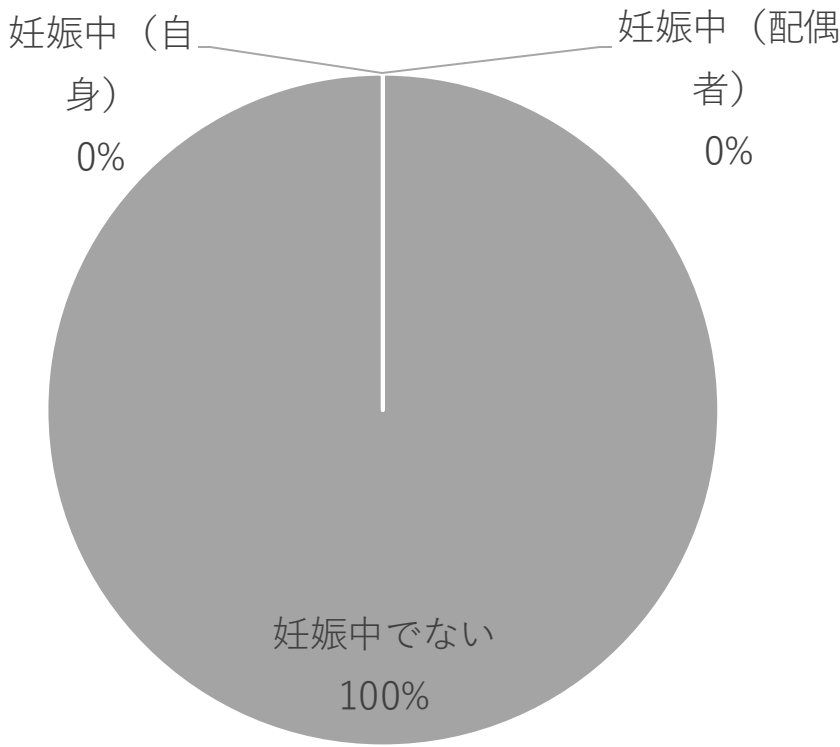
8.あなたは現在、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）がとれていると感じますか。回答するのに必要です. 単一選択.

そう思う	7
どちらかといえばそう思う	29
どちらかといえばそう思わない	6
そう思わない	5



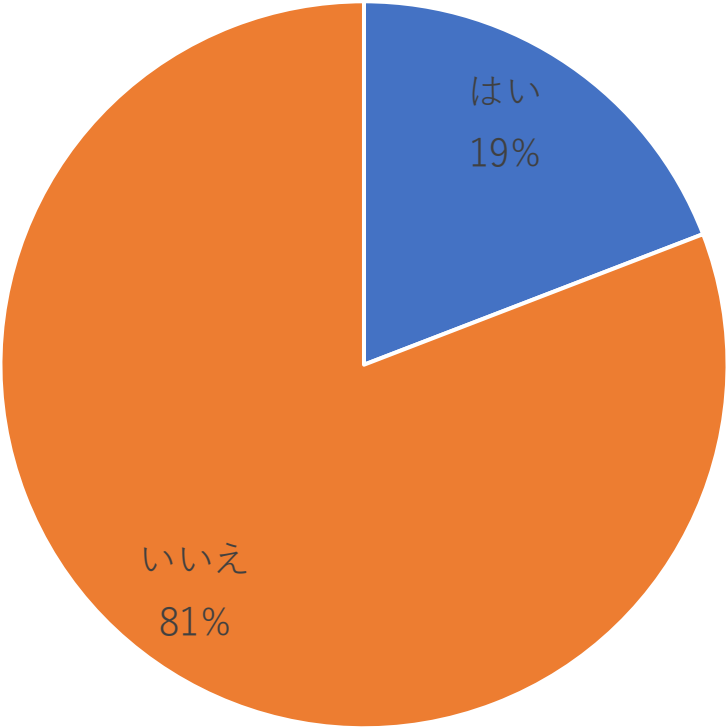
9.現在、あなた自身または配偶者は妊娠中ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

妊娠中（自身）	0
妊娠中（配偶者）	0
妊娠中でない	47



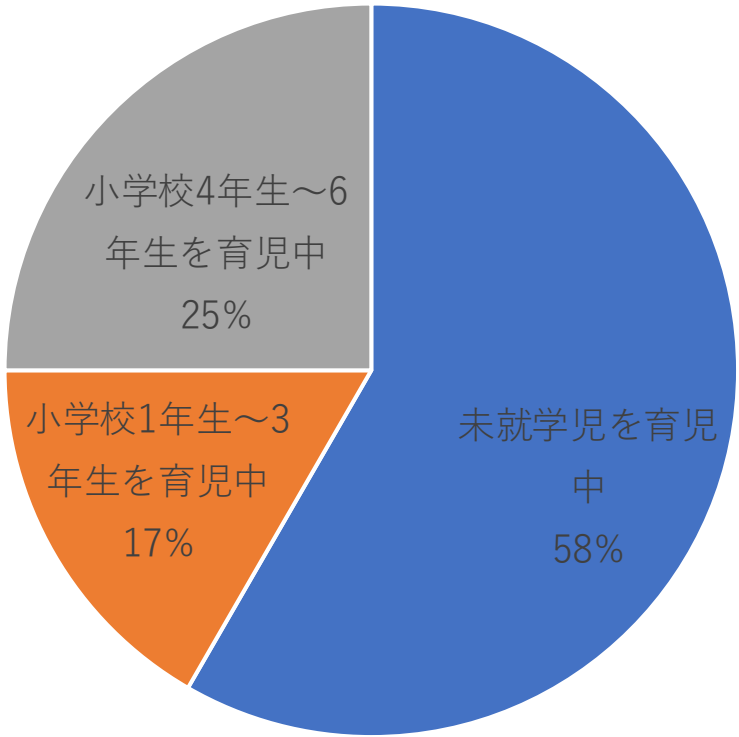
10.現在、育児中ですか。（未就学児～小学6年生に限る）回答するのに必要です. 単一選択.

はい	9
いいえ	38



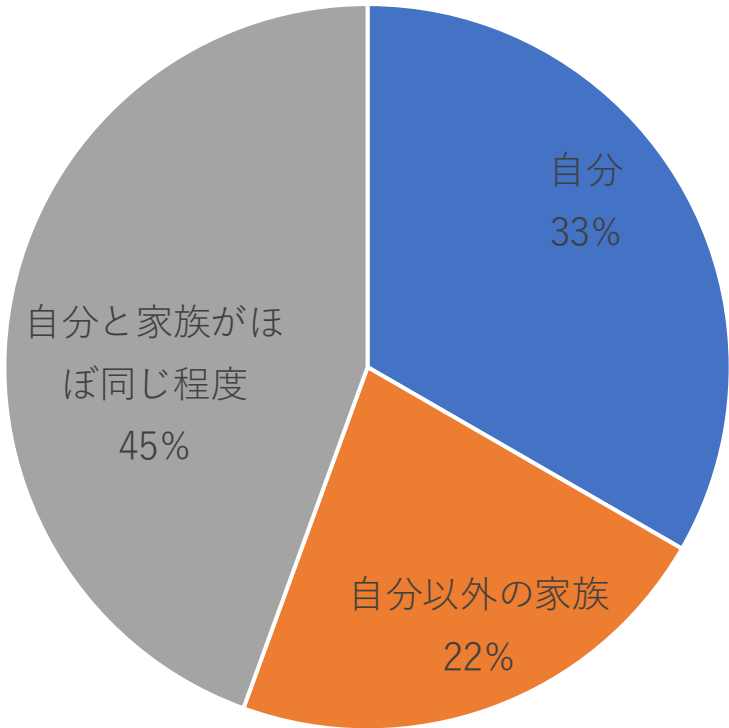
11.育児の状況をお聞かせください（複数回答可）回答するのに必要です. 複数選択.

未就学児を育児中	7
小学校1年生～3年生を育児中	2
小学校4年生～6年生を育児中	3



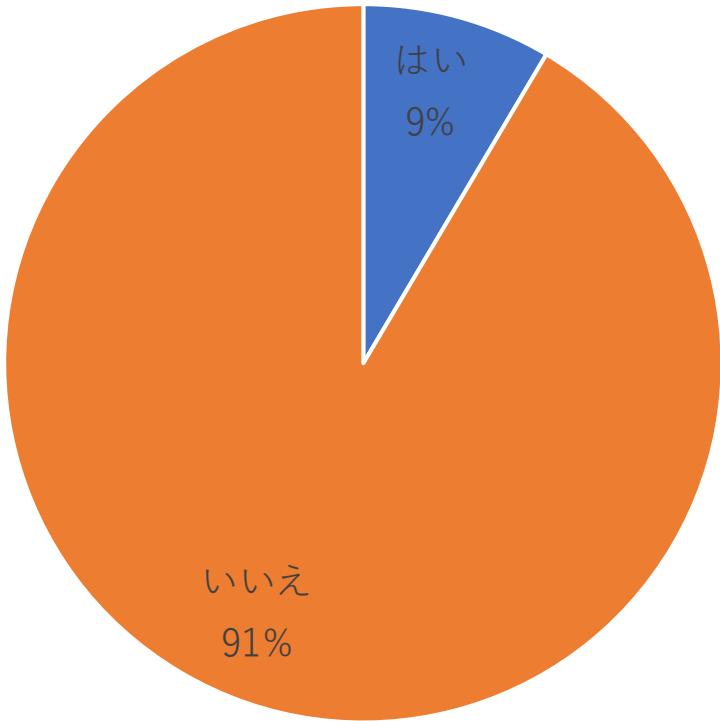
12.子育てを主に担っているのは誰ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

自分	3
自分以外の家族	2
自分と家族がほぼ同じ程度	4



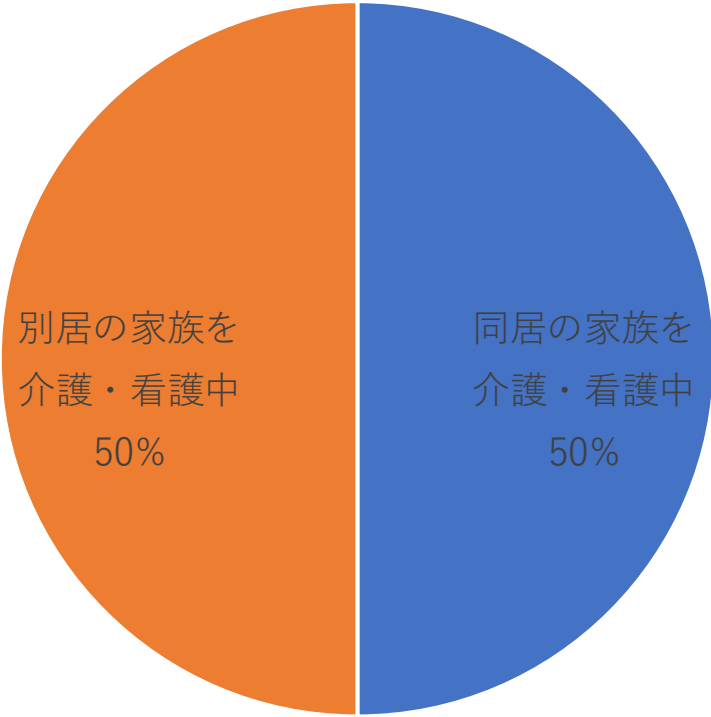
13.現在、あなたは介護・看護中ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

はい	4
いいえ	43



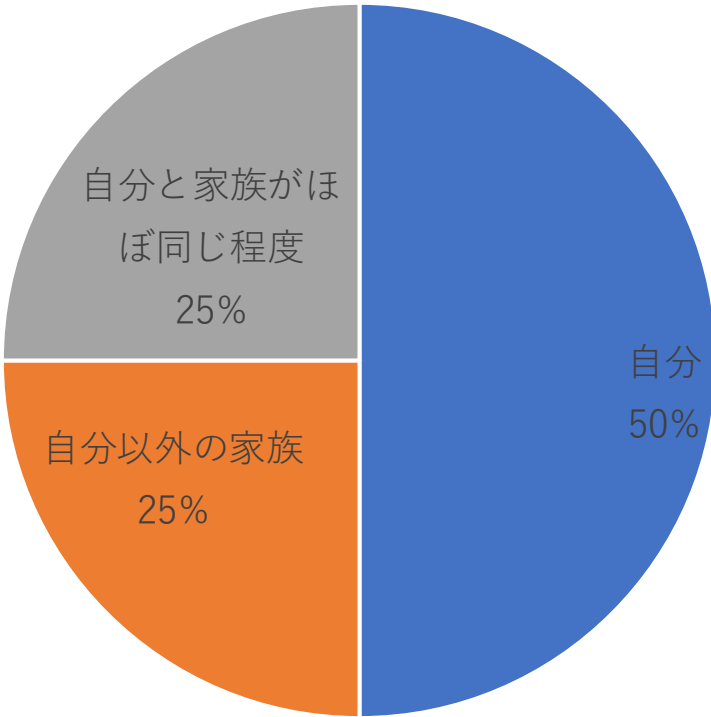
14.介護・看護の状況をお聞かせください（複数回答可） 回答するのに必要です. 複数選択.

同居の家族を介護・看護中	2
別居の家族を介護・看護中	2



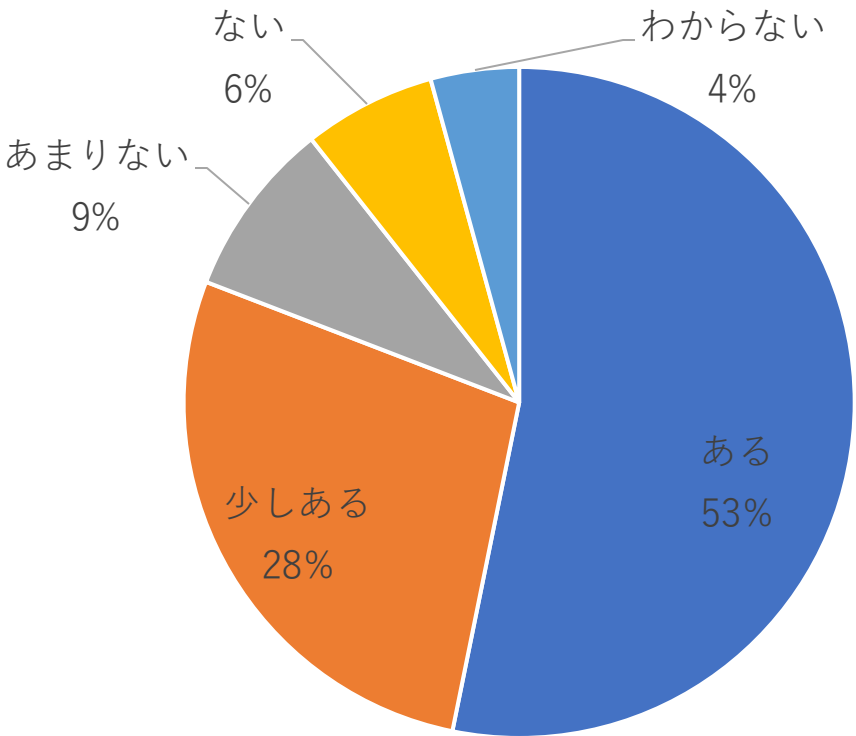
15.介護・看護を主に担っているのは誰ですか。回答するのに必要です. 単一選択.

自分	2
自分以外の家族	1
自分と家族がほぼ同じ程度	1



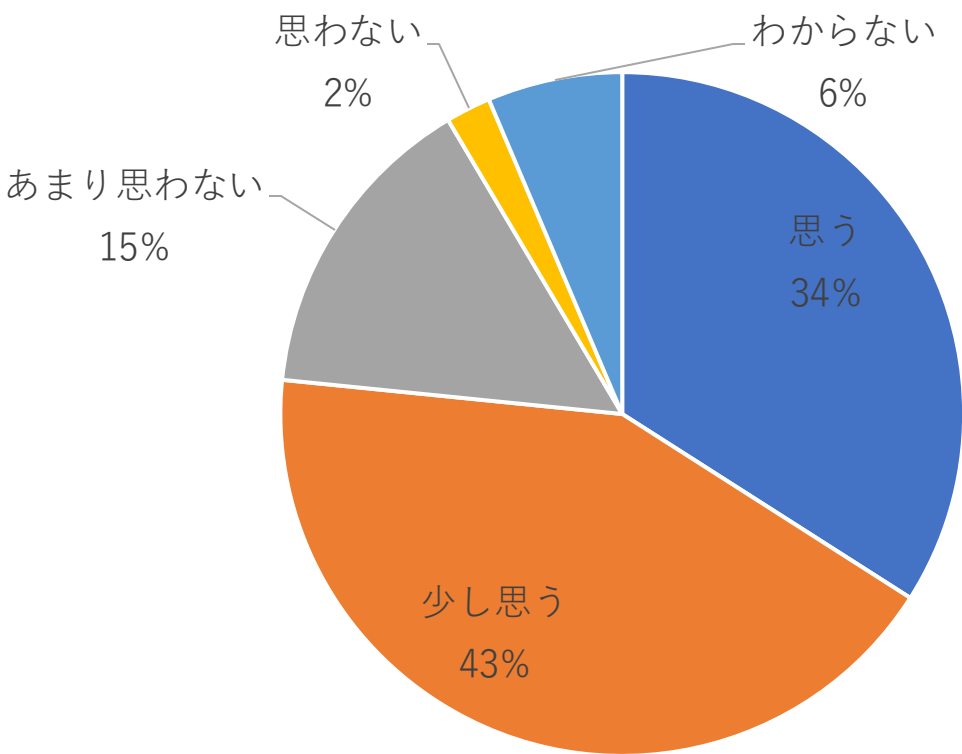
16.現在ないし将来において、仕事と育児または（および）介護の両立に不安を感じることがありますか。回答するのに必要です. 単一選択.

ある	25
少しある	13
あまりない	4
ない	3
わからない	2



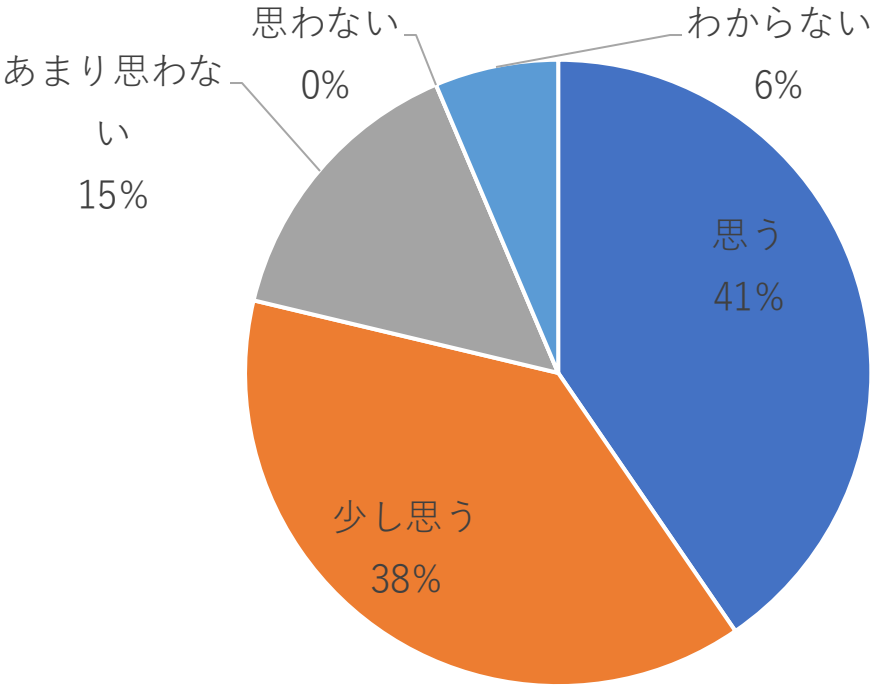
17.女性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか。回答するのに必要です. 単一選択.

思う	16
少し思う	20
あまり思わない	7
思わない	1
わからない	3



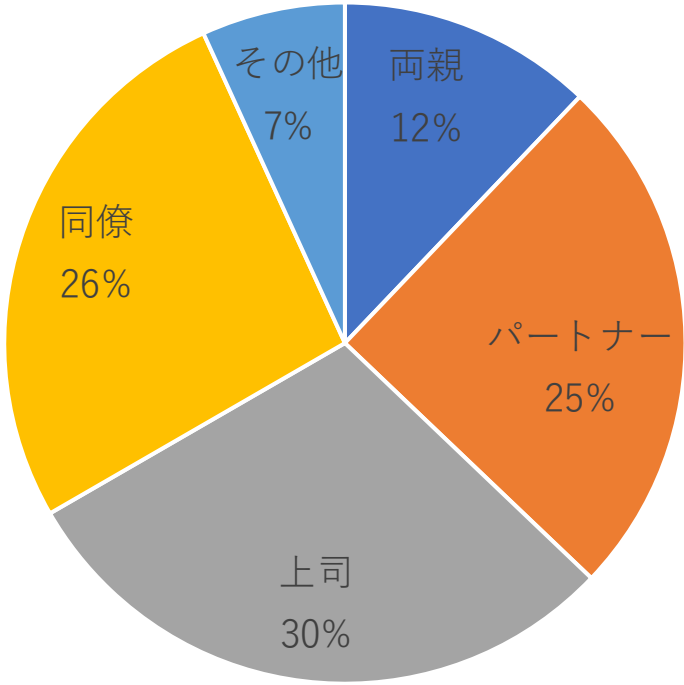
18.男性の育児・介護休業取得やその後の育児への積極的参加に困難があると思いますか。 回答するのに必要です. 単一選択.

思う	19
少し思う	18
あまり思わない	7
思わない	0
わからない	3



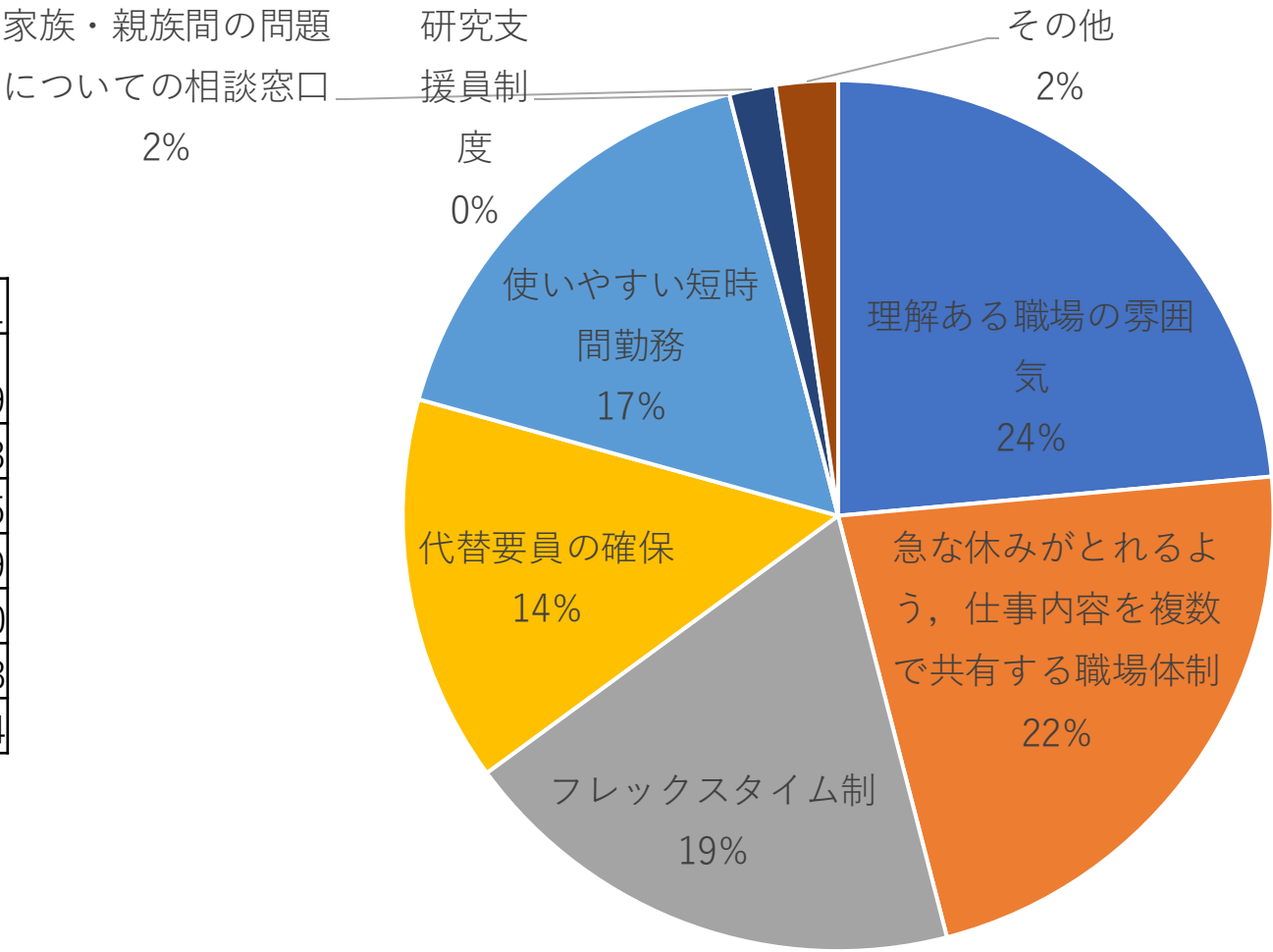
19.育児と仕事、介護と仕事を両立するために誰の理解が必要だと思いますか。(複数回答可) 回答するのに必要です. 複数選択.

両親	16
パートナー	33
上司	39
同僚	35
その他	9



20.育児と仕事、介護と仕事を両立するためには何が必要だと思いますか。（複数回答可）

理解ある職場の雰囲気	41
急な休みがとれるよう，仕事内容を複数で共有する職場体制	39
フレックスタイム制	33
代替要員の確保	25
使いやすい短時間勤務	29
研究支援員制度	0
家族・親族間の問題についての相談窓口	3
その他	4

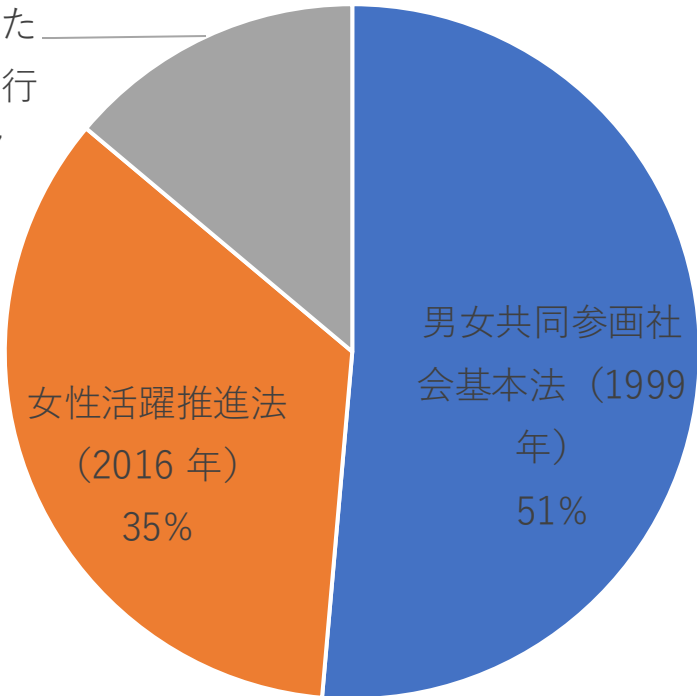




23.次のことを知っていますか。（複数回答可）

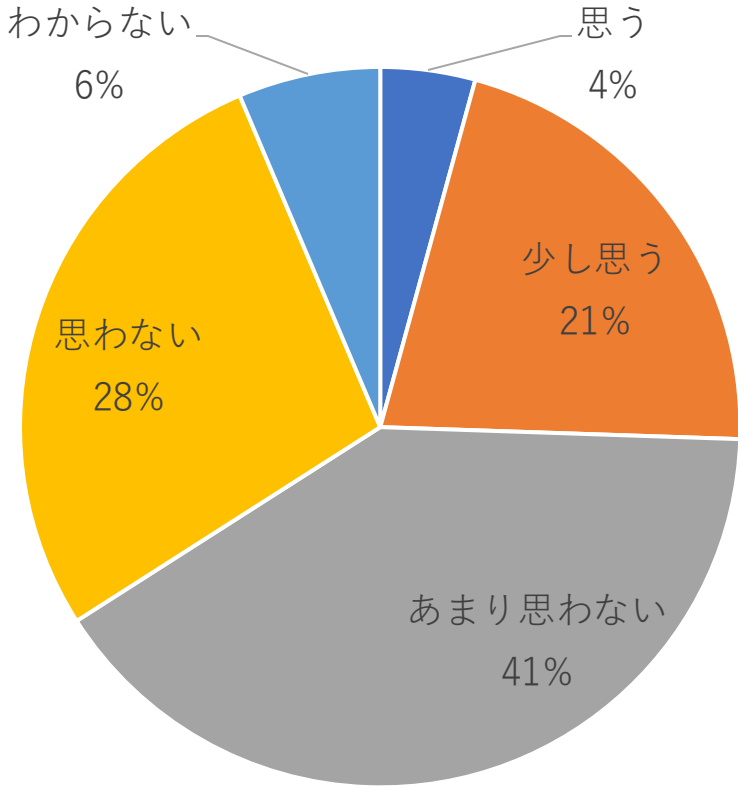
男女共同参画社会基本法（1999 年）	37
女性活躍推進法（2016 年）	25
働き方改革実現会議が決定した働き方改革実行計画（2017 年）	10

働き方改革実現  
会議が決定した  
働き方改革実行  
計画（2017  
年）  
14%



24.広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか。単一選択.

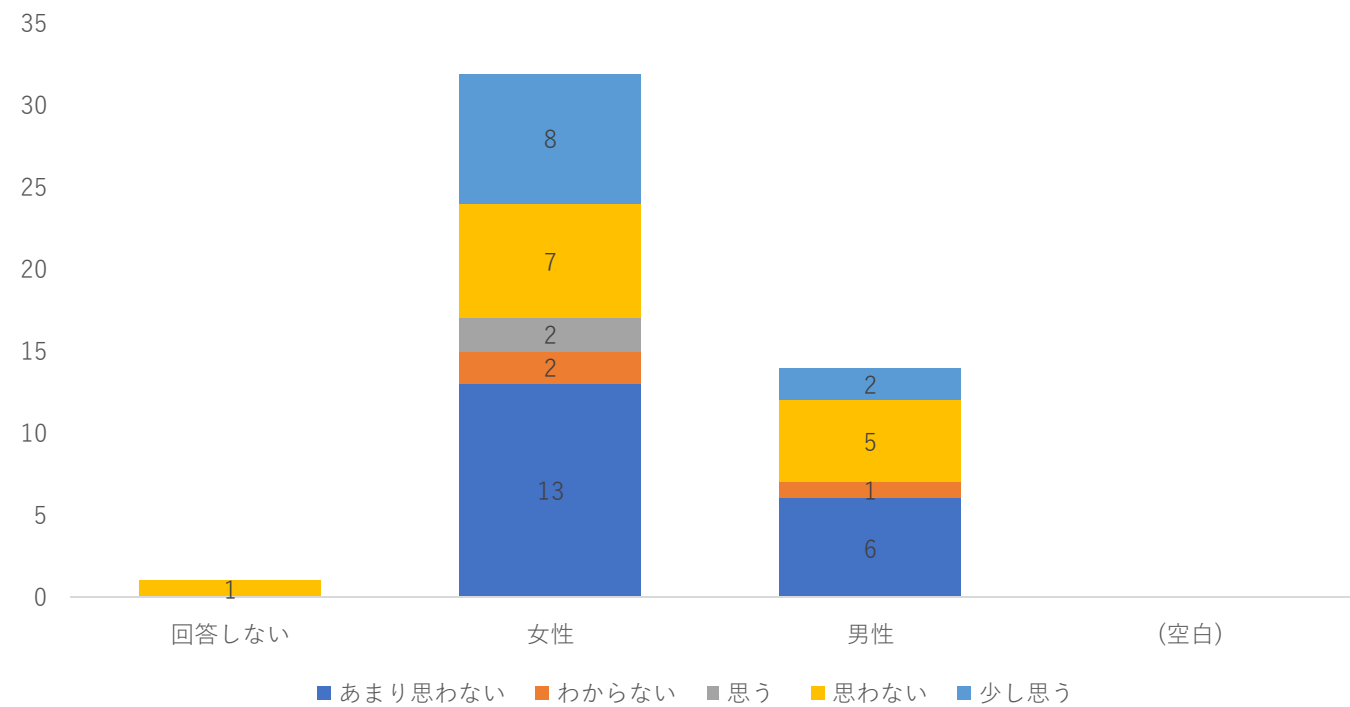
思う	2
少し思う	10
あまり思わない	19
思わない	13
わからない	3



24. （男女別） 広島市立大学における職場環境において、性別による処遇の差があると思いますか。単一選択.

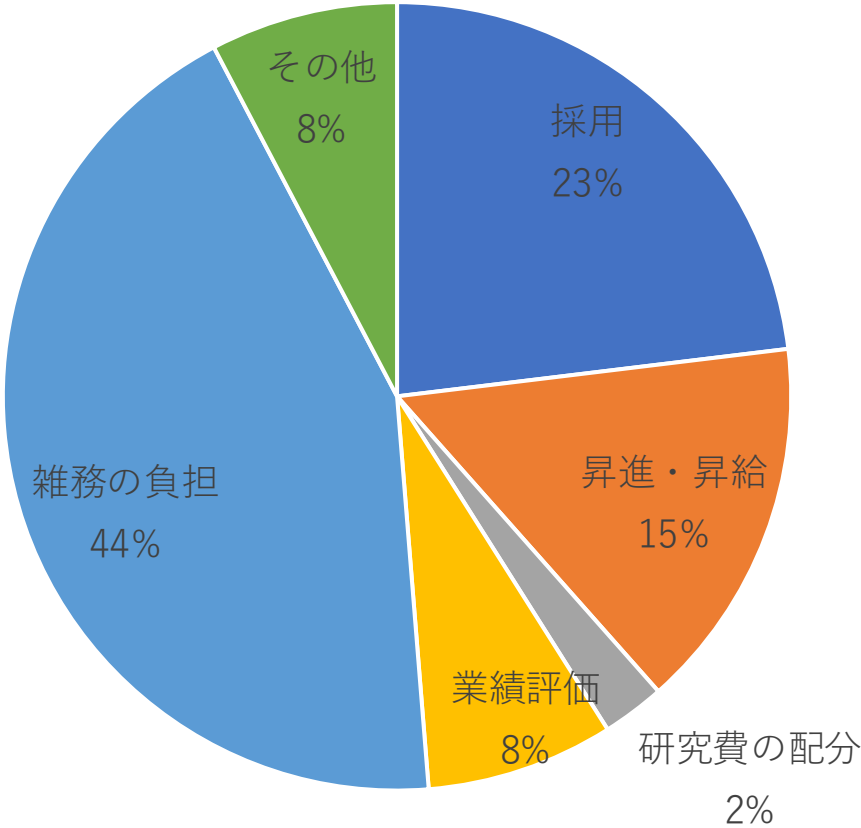
	思う	少し思う	あまり思わない	思わない	わからない	総計
回答しない				1		1
女性	2	8	13	7	2	32
男性		2	6	5	1	14
総計	2	10	19	13	3	47

特に 女性の約31%（2+8=10/32名）が「差がある」と回答  
一方、男性では 約14%（2/14名）



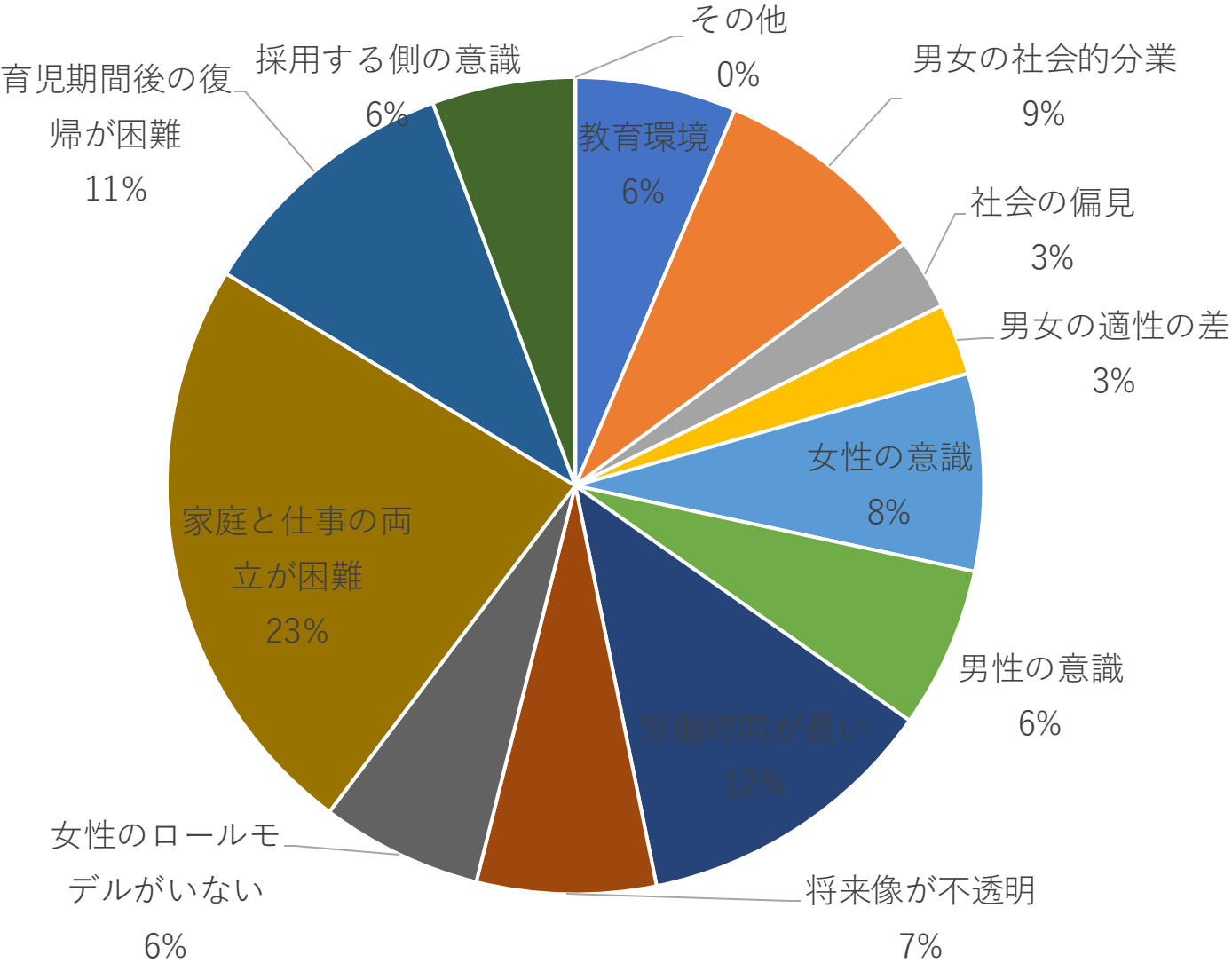
25.どのような面で性別による処遇の差があると思いますか。(複数回答可)

採用	9
昇進・昇給	6
研究費の配分	1
業績評価	3
雑務の負担	17
その他	3



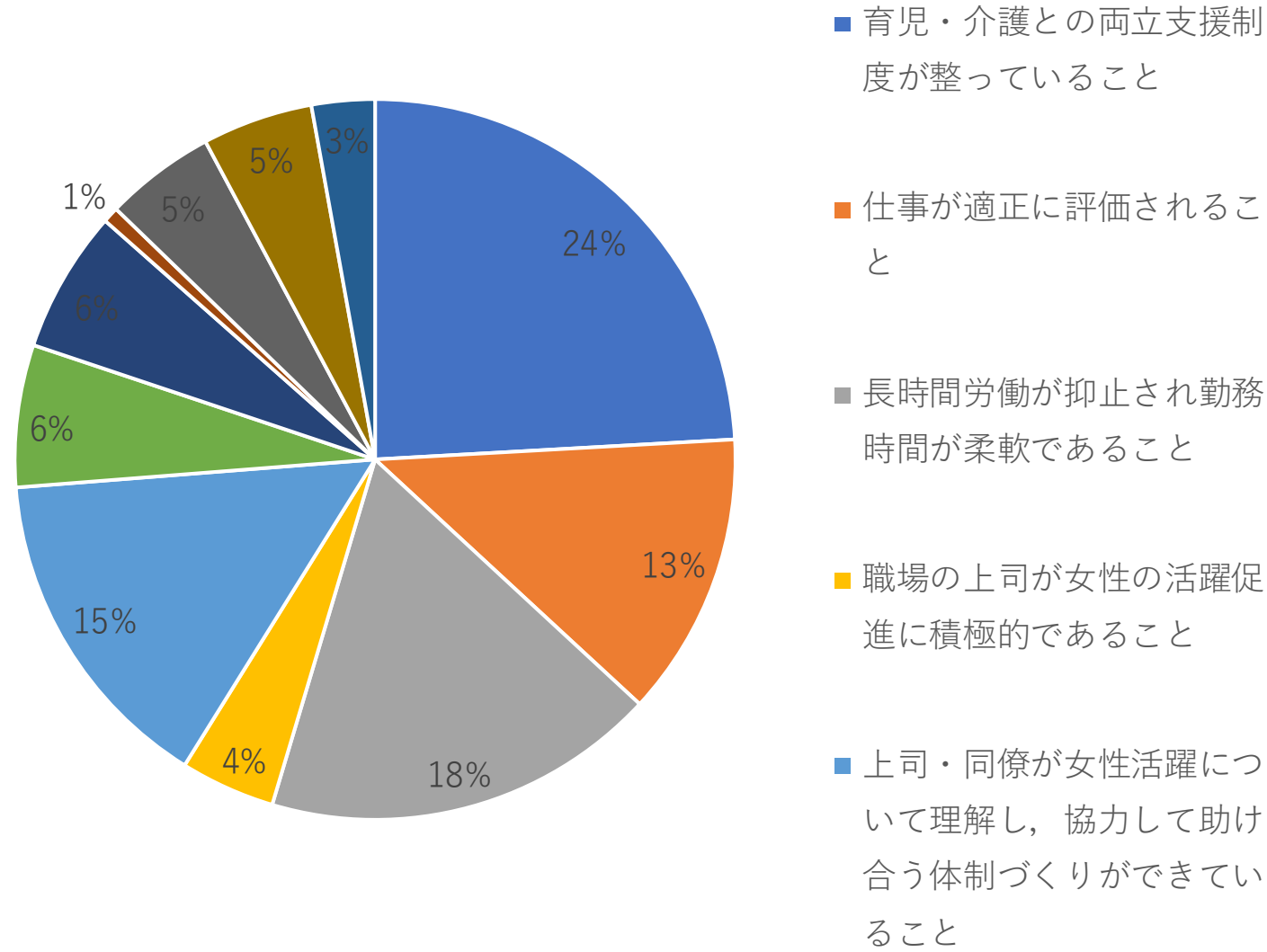
27.女性研究者が少ない主な理由として考えられるものを3つ選んでください。 回答するのに必要です. 複数選択.

教育環境	9
男女の社会的分業	12
社会の偏見	4
男女の適性の差	4
女性の意識	11
男性の意識	9
労働時間が長い	17
将来像が不透明	10
女性のロールモデルがない	9
家庭と仕事の両立が困難	33
育児期間後の復帰が困難	15
採用する側の意識	8
その他	0



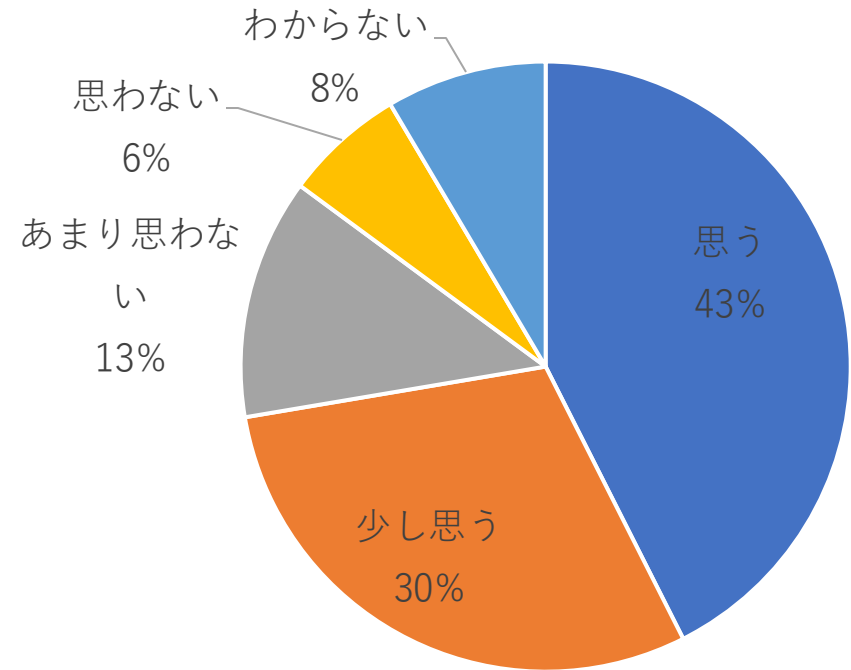
29.女性が職場で活躍するために何が必要だと思いますか？（もっとも必要だと思うものを3つ選んでください） 回答するのに必要です. 複数選択.

育児・介護との両立支援制度が整っていること	34
仕事が適正に評価されること	18
長時間労働が抑止され勤務時間が柔軟であること	25
職場の上司が女性の活躍促進に積極的であること	6
上司・同僚が女性活躍について理解し、協力して助け合う体制づくりができていること	21
活躍している女性（ロールモデル）が身近にいたり，その情報が発信されていること	9
女性の積極的登用・昇進	9
メンター（相談相手）や相談窓口があること	1
女性同士のネットワークや情報交換・交流の場があること	7
キャリアアップのための研修の機会があること	7
その他	4



31.広島市立大学における仕事を続けたい(仕事に就きたい)と思いますか。 回答するのに必要です. 単一選択.

思う	20
少し思う	14
あまり思わない	6
思わない	3
わからない	4



32.ご自身が広島市立大学での仕事を続けるにあたって(就くにあたって)、不安なこと、改善を望むことは何ですか。(複数回答可)回答するのに必要です. 複数選択.

経済的な面	21
将来の身分など	14
自身のキャリア・仕事内容	22
職場の人間関係	15
職場環境	14
通勤など	7
育児や介護などライフイベントとの両立	20
その他	2

